

平成 23 年度水源地域活性化調査委託業務
いきいきしらやま水源地域里地里山保全再生事業

報 告 書

平成 2 4 年 3 月

しらやま振興会

目 次

1. 事業概要	2
1.1 水源地域の現状と本調査の背景	2
1.2 基本方針	3
1.3 事業の内容	3
1.4 事業の進め方	4
2. 新たな商品開発および発掘としらやまブランド認証制度の確立	5
2.1 しらやまブランド化推進の考え方	5
2.2 しらやまブランド認証制度の確立に向けた検討、実施	5
(1) しらやまブランド認証制度の確立に向けた検討	5
(2) しらやまブランド認証制度準備委員会の立ち上げ	9
(3) 商品開発	19
(4) 成果と今後の課題	20
3. 体験農林業等のメニュー拡充	22
3.1 体験ツアー推進の考え方	22
3.2 モニターツアーの企画、準備、試行実施	22
(1) モニターツアー造成に向けた検討	22
(2) モニターツアー概要	24
(3) 実施結果	24
(4) 評価・検証	57
(5) 成果と今後の課題	58
3. インターネット・ソーシャルメディアを活用した情報発信	59
(1) 「越前しらやまのおもてなし」ホームページ制作の検討、実施	59
(2) ソーシャルメディア（Twitter）の活用	60
(3) 成果と今後の課題	61
4. 壺の市の出展拡充	62
4.1 壺の市の現状把握調査の実施	62
(1) アンケート調査の内容と調査結果	62
(2) 成果と今後の課題	68
5. 広葉樹林を整備し、暮らしと健康への利活用	69
5.1 水源地域としての里山保全活動の考え方	69
5.2 広葉樹林の整備、利活用	69
(1) 整備内容	70
(2) 成果と今後の課題	72
6. まとめ（水源活動の実施と今後の課題整理の分析）	73

1. 事業概要

1.1 水源地域の現状と本調査の背景

本調査対象地区は、越前市の西部地区に位置し、丹生山地南部、標高約150m地点にある約36平方キロメートルの丘陵地帯で、日野川の支流の吉野瀬川と天王川の二河川の原因流域となる場所である。

越前海岸に隣接した中山間地であり、豊かな自然環境と里山景観が残っている。農業の特産としては、寒暖の差が大きい気候と粘土質の土壌特性を活かした、稲作と甘みのある「しらやますいか」が有名である。

また本地区は、国内で絶滅の危機に瀕しているアベサンショウウオの国内最大の生息地であり、他にもメダカやゲンゴロウなど国レベルで36種、県レベルで59種の絶滅危惧種が生息する県内一の希少野生生物の宝庫である。その他、野生では絶滅していたサギソウを地元住民が協力して蘇らせ、地域を活性化させるなど、里地里山の保全活用の先駆的な取り組みが行われている。また、越前市の「コウノトリが舞う里づくり構想」のもとで、コウノトリを生物多様性や自然再生のシンボルとして位置づけた、里地里山の保全再生や環境調和型農業を推進している。

本地区はこのように、様々な取り組みを行っているところであるが、将来に亘っての再生保全のための有効な経済活動の取り組みは依然として停滞している状況にある。それは、顧客となりうる都市住民のニーズを的確に把握していないこと、ブランド商品となる農産物の認証制度がないこと、農産物等の地域における供給体制が確立されていないこと、都市住民を地域に受け入れるための体制を明確に把握していないことなどが要因として挙げられる。

今後継続した生物多様性の保全と、経済活動の両立を目指すためにも、専門家からのアイデア・技術の導入や、マーケティング調査、将来を見据えた試行実施等の取り組みが急務である。



1.2 基本方針

希少な野生生物が生息する自然環境を人の交流と協働により保全活用し、人も生き物も元気が出る里地里山を創る。

1.3 事業の内容

(1) 新たな商品開発および発掘としらやまブランド認証制度の確立

希少野生生物の保全を付加価値として、里地里山で生産された農林産物のブランド化を図り、生物多様性の保全と経済活動の両立を目指す。また、ブランド化を見据えた新たな商品を開発する。

(2) 体験農林業等のメニュー拡充

しらやま地区内農家等の受け入れ体制についての現状を把握し、観光商品をモニターのつくり、都市等住民を招いたモニターツアーの実施を行なう。参加者に対するアンケートでその課題を把握し、来年度以降の商品化につなげる。

(3) インターネット・ソーシャルメディアを活用した情報発信

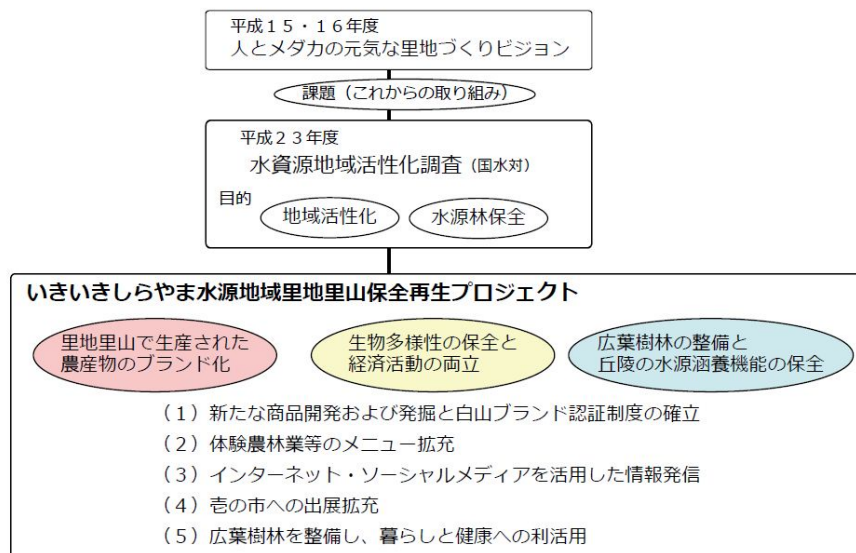
各農林産物・観光商品の情報発信には、しらやま振興会が開発する地域ポータルサイト「越前しらやまのおもてなし」やツイッターといったソーシャルメディアを活用する。これにより、消費者と地域の定期的なコミュニケーションや、口コミによる情報の広がりを実現する。

(4) 壺の市への出展拡充

しらやま振興会（水辺の会）において試験的に直売所を出店し、課題の把握・解決策の検討、新たな商品開発へつなげる。

(5) 広葉樹林を整備し、暮らしと健康への利活用

荒れた広葉樹林を整備し、丘陵の水源涵養機能を保全するとともに、下草を刈って見通しをよくする。また、整備後の広葉樹林をグリーンツーリズム等の交流事業に活用し、新たな地域活性化につなげる。さらに、陰切りを行なうことにより、獣害の軽減を図り、多様な生物との共存を図る。



1.4 事業の進め方

1) 専門家や水源地域対策アドバイザーによる助言・指導

しらやまブランド認証制度の確立には、農村地域経営アドバイザーとして実績のある北川氏や、地域環境経営研究所の中村元則氏に「地域ブランド化」についての助言、指導をいただきながら進めていく。

体験農林業等のメニュー拡充には、地域特性を生かした体験型観光に積極的に取り組んでいる水源地域対策アドバイザーの高橋氏を迎え、本地区を視察してもらい助言、指導を受け、今後の展開を図る。

2. 新たな商品開発および発掘としらやまブランド認証制度の確立

2.1 しらやまブランド化推進の考え方

里地里山の保全活用を継続していくには、経済活動と両立を図っていく必要がある。そのためには、里地里山で生産された農林産物を購入することが、その自然環境を保全し、人間には安全・安心の食料や生活品を持続的に提供してくれるということを広く知ってもらうことが重要である。

里地里山の持続的な保全と活用のために、今の時代にあった里地里山の価値を見出し、その価値をブランドとして育てていくことを目的とする。

具体的には、しらやまが持つ安全・安心のイメージを活用しつつ、地域の農林産物の差別化を図り、価値や評価を高める地域ブランド化への取り組みを実施する。

取り組み内容

- 希少野生生物の保全を付加価値として里地里山で生産された農林産物のブランド化を図り、生物多様性の保全と経済活動の両立を目指す。
- ブランド化を見据えた新たな商品を開発する。

2.2 しらやまブランド認証制度の確立に向けた検討、実施

(1) しらやまブランド認証制度の確立に向けた検討

しらやまブランド認証制度確立にあたって、まずは農村地域経営・農業経済学のアドバイザーをお招きし、本地区の現状を見てもらうとともに、今後の方向性についてアドバイスをお願いした。

○農業経済学、農村地域経営論アドバイザー

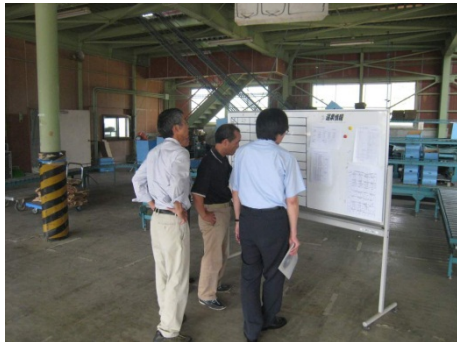
福井県立大学教授 北川太一博士

平成23年7月25日（月）

【スケジュール】

- ・15:00～ 打ち合わせ 白山公民館 振興会副会長 公民館長 事務局
- ・16:00～ 現地視察（地区内一円）
- ・19:00～ 会議（しらやまブランドの創出についての検討会 白山公民館）
- ・20:30～ 懇談会

【現地視察の様子】



しらやまスイカ市場視察



生産地視察



農家視察



里山視察



水源地視察



ダム計画地視察



観光地視察

しらやまブランドの創出についての検討会

開催日時：平成23年7月25日（月）19：30～20：30 白山公民館

しらやま振興会、水辺の会、県庁自然環境課、越前市役所農政課、地区外住民 計18名

○アドバイザー

福井県立大学教授 北川太一博士

○会議の目的

農村地域経営、農業経済学アドバイザーとして実績のある北川氏を迎え、しらやまブランド化に向けた検討および今後の方向性を探る。

○助言内容

- ①現地視察を終えての感想 ②地元の認知について ③しらやまブランドについて
- ④自治振興会活動について ⑤今後のブランド化について

○内容・成果

今後のしらやまブランド認証制度準備委員会の核となるメンバーが集まり、地域ブランド化とはどういうものなのか、基礎的なところからのレクチャーを受けた。

北川教授は、様々な企業や地域のブランド化の例を挙げながら、「他地域との差別化を明確にする基準を設けること」、「基準をチェック・審査する機関の必要性」や、「地域高齢化による意欲の低下が進む中で、若者に興味や関心を持ってもらうこと」が大切と提言された。

また、ブランド化後の販売方法の工夫について、しかける人・しかける場所の重要性を説かれた。

会議の結論としては、茨城県高萩市を例として進めていく方向性が出た。また、今後ここに集まるメンバーを中心に準備委員会を立ち上げていくことが決定した。



しらやまブランドの創出についての検討会

水源地域活性化調査視察

開催日時：平成23年8月22日（月）13：00～16：00

しらやま振興会 計7名

- 国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部
水資源政策課 水源地域振興室 課長補佐 添谷 稔 氏

【スケジュール】

- ・ 13：00～ 本市関係者との名刺交換等 越前市役所
- ・ 13：50～ 概要及び進捗状況説明 白山公民館
- ・ 15：00～ 現地視察（地区内一円）

○会議の目的

国土交通省の添谷氏を迎え、事業の進捗状況の報告と今後の展望の説明を行い、その上で今後の方向性についてご意見いただく。

○全体を通しての添谷氏のご意見

「水の里応援プロジェクト」（現在水源地域活性化リーダー養成研修に2名応募中）の利用。しらやま地区は全国に4つしか無い「里地里山保全再生モデル事業」に選定された地域なので、その点をもっとアピールすべき。

モニターツアー関連については、最近旅行の目的が細分化されており、ニーズが多種多様なものとなっている。国土交通省で観光コンテスト等もやっており、これは企画だけでも応募可能なものなので、応募してアピールしても良いかと思う（ただし水がテーマ）。昨年は長野県信州大学が黒部ダム関連で受賞している。（黒部カレーなども開発している）ブランド化に関しては伊藤忠の会社（日本アクセス）がバイヤーを集めての相談会を開いたりしているので、そこを利用してバイヤーの意見や必要とするものの情報を収集しても良い。バイヤーの中にはしらやまの規模に合った量を求める人もいるので、そういった人を探し出すのにも利用出来る。（夏7月冬1月）

色々提案があるのは良いが、果たして全部実行することが可能か。

地元の人たちはよく「何も無い」というが、こちらから見ると十分に様々なものがあるように見える。もっと活用すべき。

（２）しらやまブランド認証制度準備委員会の立ち上げ

しらやまブランド認証制度準備委員会 会議（第一回）

開催日時：平成23年8月24日（水）19：30～21：30 白山公民館

しらやま振興会、水辺の会、商工会、JA、県庁自然環境課、越前市役所農政課、地区外市民 計17名

○議題

- ①しらやまブランド設立の目的について②しらやまブランドとは③ブランド化の方法
- ④ブランド認定の方法⑤ブランド化によるメリット

○内容・成果

しらやまブランド認証制度準備委員会の立ち上げにあたり、これまでの打ち合わせ内容やアドバイザーによる助言内容をまとめたものを報告、ベースとした検討会を実施した。

まず、準備委員会全員の方向性を一致させるために、「ブランドとは何か」「なぜブランド化が必要か」をまとめた資料（地域環境経営研究所 中村元則氏）をベースに勉強会を開き、コウノトリを中心とした地域ブランド化で先行している兵庫県豊岡市の事例紹介を行った。ブランドとは、地域に「誇りや夢を与え、経験的な収益をもたらしてくれる価値を超えた価値そのもの」であり、「お客様にとっても、生産者にとってもメリットがあるもの」であることを皆で確認した。

その後、「しらやまブランド設立の目的」「ブランド化の方法」「ブランド認定の方法」等について、それぞれの立場から意見を出し合った。

ブランド化にあたっては、「まずしらやまそのものを定義し直すべき」「最終的なゴールを明確にすべき」といった意見や、「具体的にどの商品を対象にするのか」「実施においてどの組織が運営にあたるべきか」「その基準やチェック機関はどうするか」等様々な意見、議論が展開された。

ブランド化を進めるにあたり、まずはじめとしてブランド認証マークをつくり、それを商標登録する方向で決定し、それに向けてそれぞれの役割分担案が決まった。認証基準については、次の会議の議題とすることにした。



しらやまブランド認証制度準備委員会 会議（第一回）

しらやまブランド認証制度準備委員会 会議（第二回）

開催日時：平成23年9月26日（月）19：30～22：00 白山公民館

しらやま振興会、水辺の会、商工会、県庁自然環境課、越前市役所農政課、地区外市民
計19名

○議題

①認証基準について②ブランド定義について

○内容・成果

県庁自然環境課から県で採択している認証基準（農産物の工程管理等）について説明を受けた。その後、越前しらやまブランドの定義について各自意見を出し合った。ここで出された意見を集約したものを、次回の生産者説明会で発表することにした。

しらやまブランド説明会（生産者説明会）

開催日時：平成23年9月29日（木）19：30～22：00 白山公民館

しらやま振興会、水辺の会、商工会、認定農業者、生産者、県庁自然環境課、農林水産課、越前市役所農政課、地区外市民 計23名

○アドバイザー

地域環境経営研究所 中村元則氏

○説明内容

①ブランド化について（中村元則）②しらやまブランド化について（ブランド化準備委員会）③県の基準について（県庁農林水産振興課）

○内容・成果

これまでブランド認証制度準備委員会が検討・とりまとめを行った内容の報告の場として、生産者を交えての説明会を実施した。まず、アドバイザーの中村元則氏がブランド化について「なぜブランド化が必要か」「ブランドとは何か」「ブランドの構築方法」「ブランド認証制度の事例」を生産者に説明し、質疑応答を行った。生産者からは、「こういったことは行政が進めて欲しいが、動いてくれない。この場合どうしたらいいか」「高く買ってもらえるように市場開拓したいがどういう方法をとったほうがいいか」等、現在自分達が抱えている問題についての積極的な質問があった。

次に、今後進めていく「しらやまブランド化」についてブランド認証制度準備委員会が説明を行った。生産者からは「ブランド化について地域の人がまだあまり理解していない。活動についての告知・広報をもっとして欲しい」等の要望が出た。

さらに、県庁自然環境課が県の推奨する農産物の工程管理等について説明を行った。

質疑応答では、生産者から「認証基準について、JAや商工会に参加してもらうなど、しっかりとした認証委員会を設立すること」等の取り組みが必要という意見があった。

最後に、地道に粘り強く継続的にやっていきたいという意思を伝え、生産者に向けてあらためてブランド化を進める決意表明を行った。



しらやまブランド説明会（生産者説明会）

J A、県、市合同打ち合わせ

日時：平成23年10月5日（水）13：30～15：00

J A越前たけふ 営農センター3階 小会議室 14名

○会議の目的

①ブランド化に関する情報の共有

○内容

J A、県、市としらやまブランド確立についての打ち合わせを実施した。10月中には名称及びマーク決定の上、今年度中の商標登録を目指すことを伝えた。

商標登録についての弁理士との話し合い

日時：平成23年11月29日（火）10：00～11：30

鯖江商工会館3階 高島内外国特許事務所

○目的

①商標登録の区分について②商品保護の方法について③商標登録における経費について

○内容

商標登録に向けて弁理士との打ち合わせを実施した。

・商標登録の区分は、あくまでも『対象商品』の保護であって、一つの区分に登録すれば他の区分に入る商品まで保護されるわけではない。このため、商標登録は商品に合わせて登録を行うことになる。

・保護の方法について。商品保護の方法は①商標登録による保護②著作権による保護の2種類がある。

近年は地域ブランド等の出現により、各自治体より商標登録に関する相談が弁理士のところに来るが、大抵が「幅広く使用できないか」という相談が多いため、使用するものが絵であった場合には著作権による保護を推奨している。

しらやまブランド認証制度準備委員会 会議（第三回）

開催日時：平成24年1月30日（月）19：30～21：00 白山公民館

しらやま振興会、水辺の会、商工会、JA、県庁自然環境課、越前市役所農政課、地区外市民 計12名

○アドバイザー

経営アドバイザー（マーケットアドバイザー） 堀江 八十三 氏

○議題

①しらやまブランド商標登録について②しらやまブランド認証委員会について③しらやまブランド基準について

○内容・成果

これまでの打ち合わせ内容を踏まえ、まとめとなる会議を実施した。商標登録は、「しらやまさんち」マークとすること、申請する商標登録区分（指定商品案）を15種類とすることの最終確認を行った。マークについてはこのデザインで決定とし、指定商品については「まだ必要な区分がある」との意見があり再度調査、見直しをすることになった。

今回、新たに経営アドバイザーを迎え、今までの取り組みを評価してもらった。アドバイザーからは「いかに利益追求をしていくかがこれからのしらやまにとって大事」「皆の夢を中心として、人を集めていく」「生産と販売をセットにして考えなくてはいけない」といった経営面からの提言をしていただいた。

認証委員会については、「行政にアドバイザーとして入ってもらうこと」「消費者の視点を得るために地区外の、特に若い年齢の人を入れることが必要」といった意見があり、年代構成も含めて、将来を見据えた形での認証委員会を設立する方向となった。農産物のブランド基準については、県に指導を受けて「しらやまさんちのエチケット」を作成したが、「ハードルが高すぎてクリアできない」という意見があり、エチケットを守る姿勢を出すということをコンセプトにまず進めていく方向となった。

ここまでの案を中心として申請に入ることに決定した。

（2月10日に商標登録の手続きを実施、その後ブランド認証シールを制作した。）



しらやまブランド認証制度準備委員会 会議（第三回）



ブランド認証シール

【しらやまブランドの定義】

(案)

○基本コンセプト

安全・安心、生物多様性（生き物との共生、命を育む）

○ブランド基準

■農産物

①しらやま地区で生産されたものであること

（米は特別栽培農産物認証を受けていること）

（スイカは野菜出荷組合経由のもので、シールは玉に貼る）

（一般販売の米・スイカに関しては今後もＪＡと協議していく）

②「しらやまさんのエチケット」（農薬管理・食品衛生・環境保全）を守ろうとする者

■加工品

①しらやま産の素材を主に用いたもの

②しらやま地区で加工されたもの

■工芸品

①しらやま産の素材を主に用いたもの（製造場所は他所でも可）

②しらやま地区で製造されたもの（素材は他所でも可）

■共通要件

①生産者及び製造者は地区在住及びこの趣旨に賛同する者

○ブランド認証マーク



○しらやまブランド認証委員会について

①認証委員会は年に２回程度開催、規約に基づいて運営する

②認証委員は準備委員会参加メンバーが主に構成する

【商標登録の指定商品】

商標登録の指定商品			
指定商品名	類	品名・理由等	内訳
固体燃料	4類	薪・おがくず	亜炭・コークス・石炭・たき付け・たどん・まき・木炭・練炭
液体燃料 気体燃料	4類	バイオ燃料	液体燃料：ガソリン・軽油・原油・重油・人造石油・灯油 燃料用変性アルコール・ベンジン 気体燃料：液化石油ガス・石炭ガス・天然ガス
米	30類	白山の主要産物のため	
弁当	30類		
みそ	30類		
穀物の加工品	30類	米・蕎麦が白山地区で多用されることから応用が効くため	うどんの麺・オートフレーク・オートミール・乾燥飯 強化米ぎょうざの皮・コーンフレーク・さらしあん・人造米 スパゲッティの麺・そうめんの麺・即席うどんの麺 即席そばの麺・即席中華そばの麺・そばの麺 中華そばの麺・春雨・パン粉・ビーフン・ふ・米飯の缶詰 マカロニ・餅
菓子及びパン	30類	原料に白山産のものを幅広く使用可能なため	和菓子：甘栗・甘納豆・あめ・あられ・あんころ・いり栗 いり豆・おこし・かりんとう・ぎゅうひ・氷砂糖(菓子) 砂糖漬け・汁粉・汁粉のもと・ぜんざい・ぜんざいのもと せんべい・だんご・練り切り・水あめ(菓子)・みつまめ 蒸し菓子・もち菓子・もなか・もなかの皮・ゆで小豆 ようかん・らくがん 洋菓子：アイスクャンデー・アイスクリーム・ウエハース カステラ・乾パン・キャラメル・キャンデー・クッキー クラッカー・コーンカップ・シャーベット・シュークリーム スポンジケーキ・タフィー・チューインガム チョコレート・ドーナツ・ドロップ・ヌガー・パイ・ビスケット フルーツゼリー・フローズンヨーグルト・ポーロ ホットケーキ・ポップコーン・マシュマロ・焼きりんご ラスク・ワッフル パン：あんぱん・クリームパン・ジャムパン・食パン パンズ
食用粉類	30類	上記2種の粉の販売を考慮	くず粉・コーンスターチ・小麦粉・米粉・サゴ さつまいも粉・じゃがいも粉・そば粉・タピオカ とうもろこし粉・豆粉・麦粉
はちみつ	30類		

そば・あわ・きび	31類		
昆虫類	31類		
果実	31類	しらやまスイカ・柿等	アーモンド・いちご・オレンジ・柿・カシューナッツ・くり くるみ・コーラナッツ・ココナッツ・すいか・梨・バナナ・びわ ぶどう・ヘーゼルナッツ・松の実・みかん・メロン・桃 りんご・レモン
野菜	31類	白山の主要産物	枝豆・かぼちゃ・キャベツ・ごぼう・さつまいも さやいんげん・さんしょう・しいたけ・しそ・じゃがいも しょうが・ぜんまい・大根・たけのこ・とうがらし・トマト ナス・人参・ねぎ・はくさい・パセリ・ふき・ほうれんそう まつたけ・もやし・レタス・わさび・わらび
種子類	31類		園芸用球根・園芸用種子・採油用種子類・種菌・農産用球根 農産用種子
花・苗・盆栽・木	31類	さぎ草・菊等	

【しらやまさんちのエチケット】

農作業のなかで

「農薬管理」・「食品衛生」・「環境保全」を適切に行いましょう。

「農薬管理」

1. 農薬の使用を減らすための努力について

- ① 農薬の使用は、必要なときに最低限度の使用にとどめる。
- ② 農薬を使用することで、耐性がつかないようローテーション散布を行う。
- ③ 農薬の使用を減らすために、各指導機関にアドバイスを受けたり、講習会に積極的に参加したりして、農薬の知識を高める。

責任ある農薬の使用について

- ① 農薬を使用する際には、登録のあること、使用期限、使用基準を必ず確認し、ラベルをよく読んで使用する。
- ② 農薬散布の準備、使用の際にはラベルに従い、適用作物の範囲、使用濃度、使用時期、使用回数を確認し、遵守する。
- ③ 農薬は、軽量カップや台ばかりで正確に量る。
- ④ 農薬を準備する際には、農産物や環境に危害のない場所で行う。
- ⑤ 農薬散布作業後は、農薬散布記録に作業の詳細を記録する。

記録項目

対象作物および品種 ・ 散布場所（圃場） ・ 日付 ・ 農薬の商品名、有効成分
希釈倍数と散布量 ・ 散布対象病虫害や除草など ・ 農薬散布機（散布方法）
使用時期（収穫前日数など）

- ⑥ 農薬散布に使用した器具は、使用後必ず洗浄する。
- ⑦ 残った農薬や洗浄に使った水は、非農耕地に廃棄する。
- ⑧ 使用済み農薬容器は、3回以上水ですすぎ、きちんと分別して保管する。
- ⑨ 使用済み農薬の容器は、JAの回収で処分する。
- ⑩ 作業者の安全について
 - ・ 農薬散布の際、作業者は、ラベルの表示に従い、防除マスク、防護服、防護メガネ、ゴム手袋を着用し、自らに健康被害がないように注意する。
 - ・ 使用した防護服は、速やかに洗浄する。
 - ・ 防護服と、防護用具は農薬から離して保管する。

2. 農薬のドリフトについて

- ① 隣接する作物への農薬のドリフトがないような対策を行う。（周辺の作物の把握、風の強さや方向の判断、軽減ノズルの使用など）

3. 農薬の保管について

- ① 農薬の保管は、鍵のかかる農薬保管庫に保管する。
- ② 農薬保管庫は、収穫物や出荷箱などと離れた場所に設置する。
- ③ 農薬保管庫に、危険物が保管されていることを示す表示をする。

「食品衛生」

4. 農産物の取り扱いについて

- ① 「農家」は「食品事業者」であることを再認識しましょう。
- ② 食品衛生管理の3原則。入れない！ 増やさない！ 取り除く！
- ③ 農産物は農薬や肥料など農産物を汚染しかねない物と一緒にしない。
- ④ 作業前とトイレの後は、手をよく洗う。
- ⑤ 農薬や肥料などで汚れた衣服のままで収穫や調整作業はしない。
- ⑥ 飲食や喫煙をしながら作業をしない。
- ⑦ はさみやナイフなどの用具は定期的に洗浄し、清潔な場所に保管する。
- ⑧ 作業場や選別機や洗浄器などの施設は、定期的に清掃して清潔に保つ。
- ⑨ 農産物の洗浄に使用する水は、飲用に適した水を使用する。

「環境保全」

5. 適切な施肥について

- ① 窒素・リン酸は環境汚染（地下水・河川）の原因となるので、作物が必要とする以上の施肥はしない。
- ② 窒素に関しては、有機、化学ともに考慮し、やり過ぎを防ぐ。
- ③ 土壌診断にもとづいて施肥設計を行う。

6. 肥料の保管について

- ① 肥料を保管する際には、農薬や出荷箱、種苗ときちんと区別して保管する。
- ② 肥料が、雨などで流出して環境を汚染しないよう屋内で保管する。

7. 責任ある土・水・種苗の安全確保について

- ① 連作障害が懸念される作物の作付について、障害が起こらないように輪作を行う。
また、堆肥等を施用し、土作りを行う。
- ② 土壌くん蒸剤の使用を減らす工夫をする。
- ③ 種苗を購入した際には、種苗保証書を保管しておく。

9. 生物多様性の保全について（稲作）

- ① 中干し延期やふゆみずたんぼを実践する。
- ② 水田魚道や退避溝などの自然再生水田設備に取り組み、管理をする。

自然再生水田設備：水田魚道、堰上魚道、カエルスロープ、退避溝、退避池

みんなで取組みましょう！

【しらやまさんち】

しらやま
白山さんち



守(まもる)

しらやまに生まれ育ち、この地区から離れたことがありません。
農業一筋の、おひとよし。でも、続けていくためにはでもこのままでいいのかなあとも思っています。



美里(みさと)

都会からお嫁にきた美里さん。
しらやま地区のことは、何にも知りません。見るもの聞くもの何でも新鮮！好奇心旺盛！お料理が大好きです。



翔(しょう)

ようやくタッチができるようになりました。すぐにしらやまの野山を駆け回るようになるでしょう。

新鮮な空気とお水・おいしいお米・お野菜食べて大きくなるぞ！



(カエル)



(メダカ)



(はっちょうとんぼ)



(あべさんしょううお)

（３）商品開発

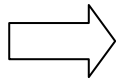
ブランド化と並行して、しらやまならではの独自性を持った商品の開発、しらやまブランド商品をPRする取り組みを行った。

【開発・生産した商品】

つぶやき米、つぶやきクッキー、つぶやきたこやき、米粉マカロン、米粉せんべい、コウノトリ貯金箱、缶バッジ、風鈴（すうーりんちゃん）



つぶやき米コシヒカリ



つぶやきこめ粉



つぶやきクッキー

【ブランドPR】

しらやますいか案内標識



しらやますいか案内標識

（４）成果と今後の課題

１）成果

地域独自のブランド化を推し進めることで、今後の経済面での地域活性化に繋がる道筋を作ることができた。

従来は他地域の産品と同一に販売されていたものを「ブランド品」として販売するためには、他と違う要素なしに消費者の信頼を得ることは出来ない。当地域は気温の寒暖の差が大きいという特徴があり、また以前より無農薬、減農薬の米を栽培するなど、ブランド化を進める下地は十分に整っていたため、ブランド化にあたって反対意見が出ることは無かった。今回のブランド化は、これまで曖昧だったものを形にするという意味でも、大きな成果を上げている。

２）課題

①ブランド商品の確保

現段階では、ようやく商標登録の手続きをしたばかりであり、商品の募集は今後の作業になる。どれだけ商品を集められるかが検討課題である。

②商品の確保

現在、当地域では農業人口の高齢化及び減少が問題となっており、それに伴い、生産量も減少している。このため、ブランド認定を行ったとしても、需要を維持するのに必要な数量を確保出来るかという問題がある。

③認証体制の確立

これまで開催した準備委員会のメンバーがそのままブランド認証委員会へと移行するが、会則やブランド認証基準に関しては議論の余地がある。また、認証委員会の内訳に関しても、将来的には生産者を中心とした組織に移行することが望ましい。

④広報、販促

現時点でようやくブランド化の目処がついた状態のため、認知度に関しては、地域内においてさえ、十分であるとは言いがたい。今後はまずブランドとなる産品を募集することが先決のため、地域内での認知度を高めるところから始める必要がある。販促に関しては、従来の販売ルートでは、ブランドとして売り出すことは難しいため、新規に販促、販路のルートを確保する必要がある。また、知名度の低さはそのまま消費者からの信頼を十分に得ていない状態であることを示しているため、まず信頼を得る、リピーターを得ることが活動の基本となる。

３）課題解決のためには

認定基準については今後話し合っていて決めていく必要があるが、基準を厳しくしてしまうと認定品が少なくなり、数量的にも販売が難しくなってしまうため、応用可能な範囲で定めるのが望ましい。

販売する品の数量に関しては、生産者にお任せする形になってしまうため、広報・販促の方法等にも影響することになる。このため、生産者も交えての議論を行う方向で、調整する必要がある。

組織のあり方については、生産者中心の組織に移行するのが最も望ましいが、同時に第三者視点として、都市部住民及び農業に関わりの無いサラリーマン等幅広い参加を求めることで会則や組織運営に柔軟性を持たせていきたい。

広報や販促に関しては、今後は大阪等の大量消費が見込まれる都市部を中心として出向宣伝を定期的に行うことで知名度、信頼性の向上に努めたい。また、ブランド化をきっかけとして、希少野生生物の保全を付加価値とした商品や仕事づくりに取り組んでいく。

3. 体験農林業等のメニュー拡充

3.1 体験ツアー推進の考え方

本地区は以前からしらやま振興会、水辺と生き物を守る農家と市民の会等の組織があり、地域外の人たちとの交流事業を始めている。また、外部のNPOはしらやまでの自然体験活動を始めている。このように本地区の自然の価値が認められつつあり、それを活用した活動は次第に広がっている。

グリーンツーリズム等の交流事業は、新たな地域活性化の柱となるものであり、その交流の中で本地区の自然を保全する協働作業を推進していくことが必要である。

これまでの取り組みとして、「里地里山チャレンジ隊」「川で遊ぼう」「ホタルのゆうべ」「食の文化祭」等、都市等住民との交流機会は増加しているが、実施においては行政の助成に頼ることも多く、地域としての自立的・経済的な活動には至っていない。

本事業では以下の新たな取り組みを実施することで、来年度以降の本格的なツアー企画、実施につなげる。

- 都市住民を招いたモニターツアー実施による感想・課題の把握、分析
- 豊かな自然環境を活かした体験ツアーメニューの拡充
- 里地里山等の地域資源の整備、利活用

3.2 モニターツアーの企画、準備、試行実施

(1) モニターツアー造成に向けた検討

体験農林業等のメニュー拡充にあたってまず、水源地域対策アドバイザーに来てもらい本地区の現状を見てもらうとともに、今後の方向性についてのアドバイスをお願いした。

○水源地域対策アドバイザー

高橋 充 氏 (株)南信州観光公社専務取締役

開催日時：平成23年7月1日（金）

【スケジュール】

- ・15:00～ 打ち合わせ 白山公民館
- ・16:00～ 現地視察（地区内一円）
- ・19:00～ ツアーに向けた検討会（白山公民館）



しらやまツアーに向けた検討会

しらやまツアーに向けた検討会

開催日時：平成23年7月1日（金）19：00～21：00

白山公民館 14名

○水源地域対策アドバイザー

高橋 充氏 （株）南信州観光公社専務取締役

○会議の目的

地域特性を生かした体験型観光に積極的に取り組んでいる水源地域対策アドバイザーの高橋充氏を迎え、他地域の成功事例を聞き、ツアー実施に向けた検討および今後の方向性を探る。

○助言内容

- ・南信州観光社の取り組みについて
（体験型観光をはじめたきっかけ～どのように進めていったか～現在の状況）
- ・南信州ホームページを見ながらの事例紹介
（飯田市の体験ツアー、農家民宿など）
- ・しらやま現地視察を終えての感想、助言
- ・質疑応答

○会議内容・成果

農家民宿と農業体験は越前市の団体「ロハス越前」等を通して、これまで一部の農家で受け入れているが、地域全体としての積極的な取り組みまでには至っていない現状がある。

それにはいくつか原因（中心となって実施する組織・人がいない、地域全体としての受け入れ態勢が整っていない、ノウハウ不足等）が考えられる。

今回、アドバイザーの高橋氏に会議に入ってもらうことで、農家民宿を拡大するにあたってどういった手法が考えられるか、具体的にどう進めていったらいいかを全体で話し合う機会を得ることができた。

質疑応答では、「実際に体験はどんなメニューなのか」「ツアー料や農家への手数料はどれくらいがいいのか」「保険などはどうしているのか」といった質問に対し、400件もの農家民宿と提携し採算ベースに乗せている高橋氏に具体的事例を上げた助言をしてもらった。

また、「受入側の体制づくりをどうすればよいか」等、現状抱えている問題（食事について、消防法について、受け入れ側の心構え等）をそれぞれに出し合い、アドバイザーに助言をもらった。

（２）モニターツアー概要

現状分析を踏まえ、モニターツアー実施に向けた検討を行った。

結果、過去にしらやま地区で開催したイベントの参加者の多くは、子どもたちに自然体験をさせたいと願う親子連れや、環境に関心の深い専門家がが多く、固定化しつつあることがわかった。

そこで、今までと視点を変え、これまで参加の少なかったおとなの都市住民をターゲットに、自然豊かなしらやま地区のよさを十分に体感してもらえるツアープログラムを企画することとした。

内容としては里山ならではの遊びや学び、癒される体験をメインとし、今後、地域住民と都市住民の交流と協働により、里山を保全活用することや、生産者と消費者の交流活動などを通して、人も生き物も元気がでる里地里山を創ることを目指した。

企画・実施したモニターツアー

- ・ 第一回しらやまなう おとなの森の音ものがたりモニターツアー（１１月１３日（日））
- ・ 第二回しらやまなう 知って得するコウノトリ&里山教室（１月２９日（日））

（３）実施結果

催行したモニターツアーの内容、アンケート結果を以下に示す。

１）第一回しらやまなう おとなの森の音ものがたりモニターツアー

【趣旨・狙い】

都市住民をターゲットに、「森に親しむ」をコンセプトとした里山ならではの癒される体験をしてもらい、里山の保全活用や生産者と消費者の交流活動に結びつけていく。参加者の意見を反映させ、本格的な旅行商品化を目指す。

【日時】２０１１年１１月１３日（日） ９：３０～１５：００

【参加費】ひとり１,０００円（昼食代、保険代、ノルディックウォークレンタル料）

【参加者】２４名

【スタッフ】しらやま振興会メンバー（引率班３名、森班５名、食事班３名）

ロハス越前

【演奏】カリメロミュージックプール

【持ち物】温度調整できる衣料・収穫祭で野菜購入希望の方はお金

【プログラム】

- １．金華山収穫祭に参加する。
 - ・ 地元の食材を利用した料理の試食
 - ・ 農作物の購入
- ２．里山をウォーキングし五感を使って、里山の秋を体感する。

3. ダッチオープン料理でしらやまの秋の味覚を堪能する。
4. パーカッション（打楽器）ライブ
出演者「カリメロミュージックプール」
5. 「カリメロミュージックプール」の指導のもと、ワークショップを開催。
 - ・森の材料を使って、パーカッション（打楽器）をつくる。
 - ・楽器がそろったらジャムセッション（自由即興合奏）を行う。

【スケジュール】

時間	内 容	場 所
9:30	集合・受付 酒井会長挨拶 参加者紹介 ツアーの趣旨説明	J R 武生駅 越前市体育館 バスの中
10:00	金華山収穫祭 地元の食材を利用した料理の試食 農作物の販売	・ 金華山
10:30	ノルディックウォークで森まで	
11:00	ダッチオープンで地元食材調理・昼食	・ 牧町森
12:00	パーカッションで森の音楽会 ワークショップ 「自然物を生かした音の体験プログラム」	
14:00	アンケート記入・意見交換会	
15:00	終了・送迎	J R 武生駅 越前市体育館

【告知】

テレビCM、新聞、イベントでのチラシ配布、ホームページ掲載



ツアー告知（テレビCM）

【準備】

広葉樹林を森の音楽会の会場に活用するため、7月14日から11月12日までの間、段階的に雑木・下草の伐採、片付け作業、木道制作、ベンチシート制作、ハチの巣退治などの作業を実施した。

【所感】

- ・アンケートでは、今回の参加者のうち、2／3がしらやまの場所を知らなかったと回答、ツアーではじめて訪れる人が多かった。また、ツアーに参加してしらやまのイメージがアップしたと答えた人が多く、ツアーがしらやまのPRに有効であり、ファンづくりにつながっていることが実感できた。
- ・森の中でのライブを新鮮な体験と感じた参加者は多く、今回のような自然を活かした、通常生活では体験できないツアーが期待されていることがわかった。
- ・主に「食」が印象に残ったという回答が多数を占め、「ダッチオープンで地元食材料理」が支持を得ていた。
- ・「今回のような体験ツアーに、参加費の上限はいくらなら適当だと思いますか？」という質問に「1000円まで」という回答が多かった。3000円以上と答えた人はおらず、ツアーにおいて、今後採算ベースに乗せられるかが課題である。
- ・スタッフへの感謝や、しらやま地区への励ましの言葉を多数いただいた。
- ・今後も「大人のためのツアー」の開催を希望する声があり、この分野のニーズがあることがうかがえた。

【反省・改善点】

- ・「集合場所に駐車場がなかったので苦労した」「駅でバスまで案内する人がいなかった」との不満の声があった。
- ・金華山収穫祭では、参加時間が早かったため「ふるまい」や販売の時間に合わず、十分に堪能できなかったという意見があり、スケジュールの見直しや調整が必要である。
- ・ノルディックウォーキングでは、「もの足りなかった」「雨で汚れた」「道具（スティック）が皆に行き渡らなかった」といった意見があり、距離の検討、雨天時に備えての事前アナウンス、参加者分の道具の準備などの改善が必要である。
- ・申し込み後の対応の悪さ、事前の連絡不足や、細かいスケジュールなどの改善を求める声があり、今後さらなる改善が必要である。

【ツアー風景】



駅・市体育館で集合



バスの中でしらやまの説明



金華山収穫祭で地元農作物の試食、購入



ノルディックウォーク体験



整備された森の中を散策



白山の森についての解説



電気自動車トイレの送り迎え



地元食材調理風景



ダッチオーブンで地元食材調理



竹串でパンを調理



ダッチオーブンで地元食材調理（完成）



パーカッションで森の音楽会



自然物を活かした音の体験プログラム



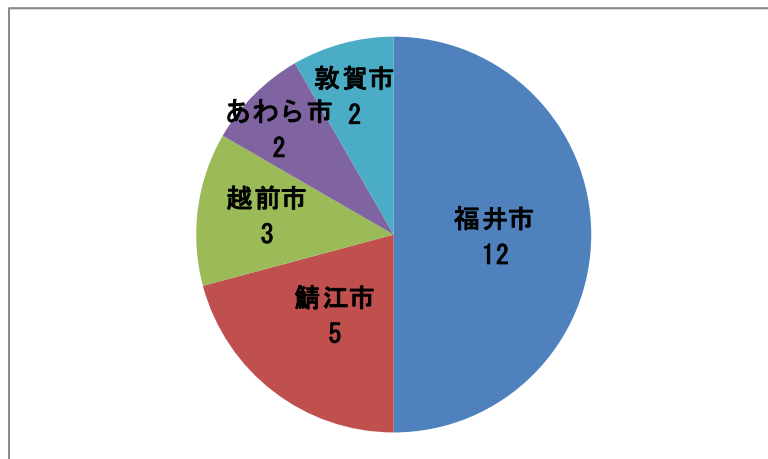
森の中でネイチャーゲーム

【アンケート結果】

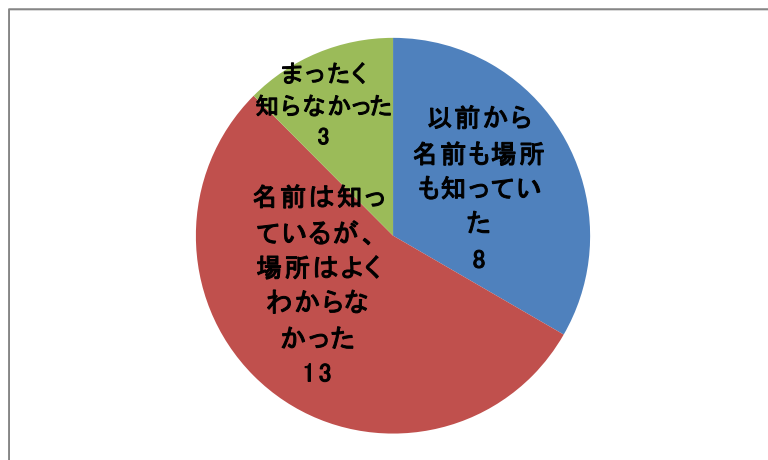
第一回しらやまモニターツアー参加者アンケート結果

平成23年11月13日

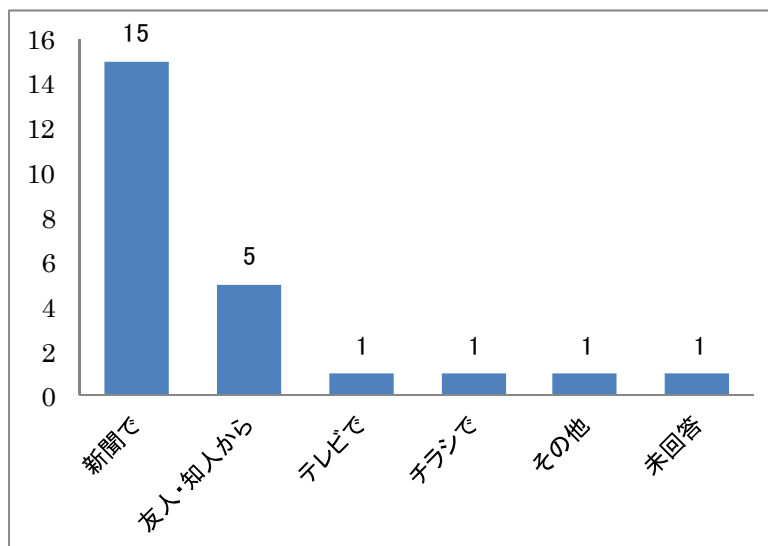
Q1. 本日はどちらからお越しになりましたか？



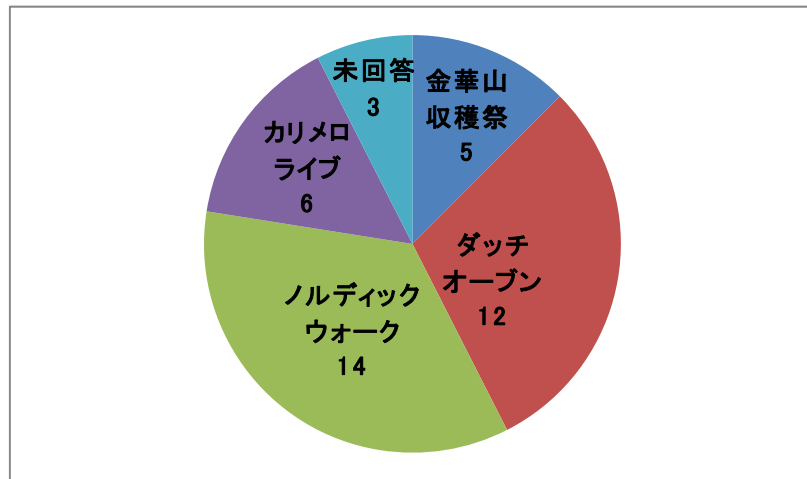
Q2. あなたは越前市白山（しらやま）地区をご存じでしたか？（該当するものに○）



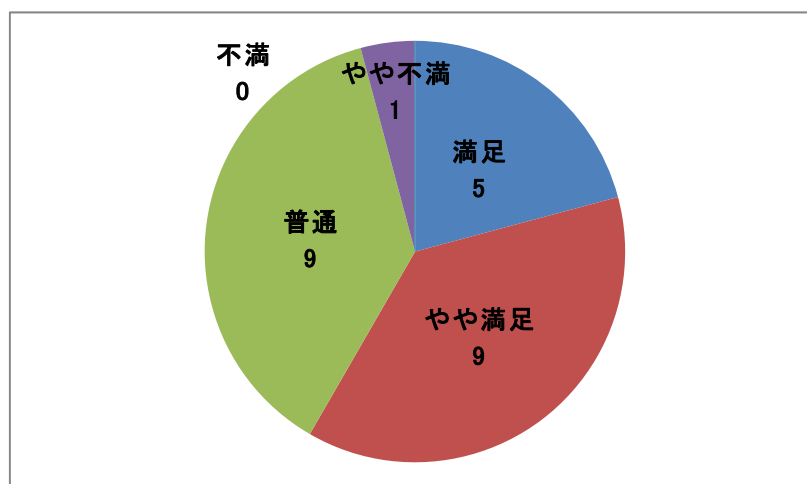
Q3. 今回のモニターツアーに参加されたきっかけはなんですか？



Q4. 今回のモニターツアーのどの部分に期待をお持ちでしたか？（該当するものに○）



Q5. 金華山収穫祭に参加されていかがでしたか？（該当するものに○）



ご意見・ご感想

このような祭りがあるとは知らなかった。

白山特産のつけもの類の販売がないのが残念である。

思っていたより規模が小さかった。もっとお店が出ているとうれしい。

料理はすごくおいしかった。

バスが着いた時に、時間が早すぎたのか野菜を売ってくれなかった。

野菜の他に加工品（漬物や土地の加工品、手作りの味）の販売があるともっと良いと思います。

欲しいものが買えました。

雨が降り少し寒い思いもしました。

雨だったから？よくなかったのか、挨拶が長すぎ。

駐車場がなかった。

場所が狭い。人がゴミゴミしていて身動きがとれない。

初めて来ました。こうのとりに見に来ます。

安い。駐車場が少ない。道が狭い。

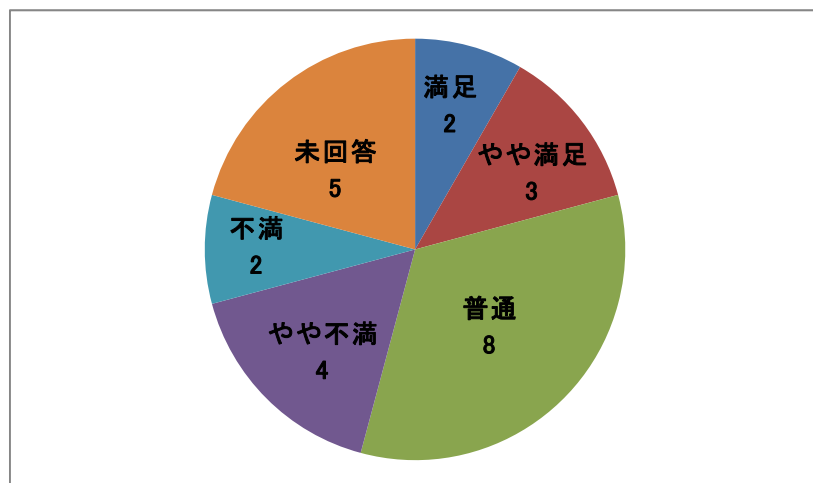
米、野菜、果物が低価で買えてよかったです。地元産なので安心して食べられると思います。（輸入ものは安くても買う気がしないため）

新聞でみていたが、どんなところか知りたかった。白山すいかは最高です。敦賀には売ってません。

10月頃だとよい季節だと思う。

雨が降って残念だった。スタッフの人がやさしかった。

Q6. ノルディックウォークに参加されていたいかがでしたか？（該当するものに○）



ご意見・ご感想

短い距離だったが体験したことがなかったのでよかった。

はじめてだったので気づくと手と足が一緒になってしまい緊張しました。以前から興味はあったので体験できてよかったです。

ウォーキングはなじみがあるが、ノルディックウォークははじめてなのであまりよくわかりません。

雨が降ってくつ、ズボンが汚れてしまった。

ウォークの距離数が少ない

全員分の道具を用意してほしい。もう少し距離があってもよい。

もの足りなかった。

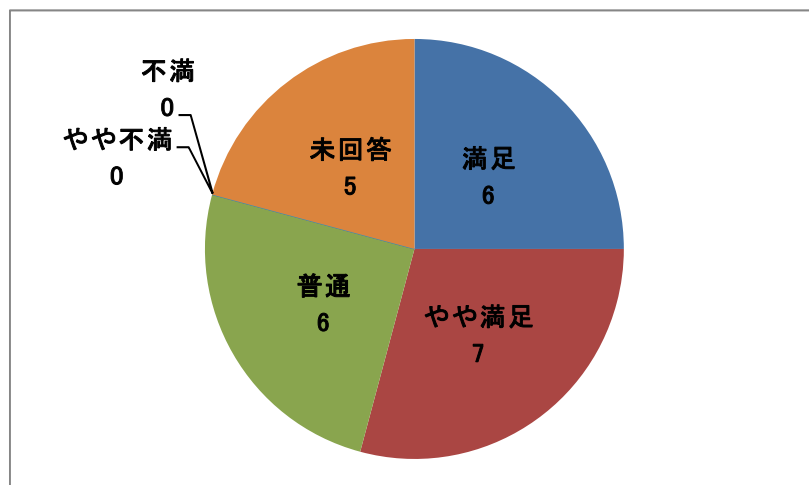
使ってみたがまだよくわかっていない。

もっと長い距離を歩くのかと思った。団体で歩いたため自信のペースで歩けなかった。

近すぎて少し物足りなかった。雨だったのでぬかるみで、事前にその点を注意しておいて欲しかった。

スティックを使って歩くのははじめてでよかった。
山で使わないと意味がわからない。
もう少し歩きたい。
全員参加できるとよかった。
参加していない。

Q7. カリメロミュージックプールのライブやワークショップに参加されていかがでしたか？



ご意見・ご感想

昼食前のためかちょっとぐったりしている人もいたような？でも私的には楽しくさせて頂きました。

聞いた事がないので興味深かった。

ライブはおもしろく興味があった。

森の中というのがよかった。神秘的。

天気がもっとよかったら受け取る感じが変わったのかなと思う。

屋外でよく響いていて自然の中ではの感覚を味わえました。

こちよい音楽でした。

自然を活かした楽器づくりがしたかった。

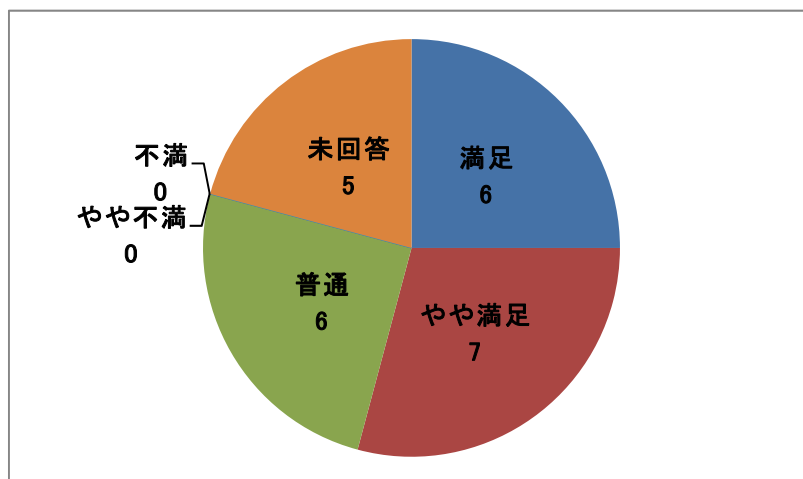
最後に全員参加できたのが良かったです。手拍子での参加でしたが、リズムを取るのが難しかったです。バケツも木の幹も楽器になるのがおどろきでした。

森の中で聞く演奏は聞きやすかったです。他とは違っていました。

森の中でカリメロミュージックの人がやりにくかった様だ。

コンサートが森の中で心にしみた。

Q8. バスでの参加はいかがでしたか？（該当するものに○）



ご意見・ご感想

連れて行っていただけるので楽でした。

手軽でよい。

JR駅に着いた時にバスの係の人が見当たらなかったの、腕章するか、プラカードを持つかわかりやすくして欲しかったです。

ゆったりしていました。

駐車場がない、せまい、遅れる人がいた。

駐車場がないので困りました。

集合場所、時間等事前に知りたかった。

森さんの言葉が楽しそうに思ったから。

駐車場がなかった（体育館集合）ので停めるのに苦労した。

Q9. 今回のモニターツアーに参加する前に持っていた白山地区のイメージと、参加後のイメージではどう変わりましたか？

参加前のイメージ

どうしても白山というとスイカと大根の産地というイメージしかなかった。

とてもいいところだということ。

こうのとりの里ということで知りたくて参加しました。

白山スイカのイメージしかなく、場所もわからなかった。

前から悪いイメージはもっていません。

いなか。

普通。

山が深く暗いイメージでした。

遠い。山の中だけと思っていた。
何もないイメージ。スイカおいしい。
越前市のいなかというイメージ。
すいか畑のみかと思っていた。
こうのとりが来るいなかの農村。
山の過疎地で雨深いところ。
何があるのかわからなかった。

参加後のイメージ

自然がいっぱいあり空気もおいしく感じられ白山に対する印象がアップした。
のんびりしていて時間がゆっくり過ぎる感じがしました。
空気もおいしく、野菜もおいしかった。今度はスイカも食べれる時期に来たい。
人がいい。自然がいい。
いなかだけど人があたたかい。
みんなが一生懸命里山を守っていく姿勢が見えました。
熱心な故郷愛。
山が整理されつつあり、こうのとりがすめるような所だと思う。
里山を守る活動に一生懸命取り組まれている姿に感銘を受けました。
おいしい食材（山の幸）がいっぱいあって、自給自足してみたい。
この様なところかと思った。
自然豊かでよかったです。
また参加したいです。
よかったです。
こんな所かと思った。
あまりかわらない。

Q10. 印象に残った風景・場所・もの・人・話・たべものなど3つ程度教えてください。

山登り、ししなべ、ポトフ（ソーセージ）
たき火の竹に巻いてのパン焼き、ジャムセッション（次も是非音楽を）
いのししのおり、木のまびき、料理の仕方
パンがおいしかった。ピザもつくってみたい。
山いもがやすい、雨だったので風景がよくわからない、すぐ横は海なので海産物（かになど）があってもよい。
こうのとりの米、オープン料理、パン、もちピザ
ポトフのウィンナーがおいしかった。
雨で風景は楽しめず残念ですが、森さんがおもしろかったです。
パンもたき火で焼けるのは知らなかったので楽しかったです。
ダッチオープンを使った料理、里山を守っている姿勢、取り組み

森さん。マイクでしゃべる時はもう少し小さい声をお願いします。

パン、きのこの味噌汁

こうのとりのゲージ、ダッチオーブン、ライブ

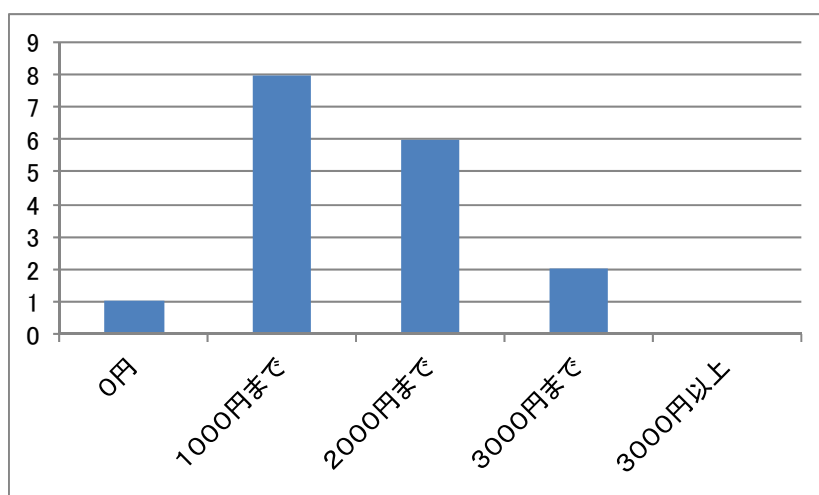
こうのとりの里、食べ物全部

人、たべもの

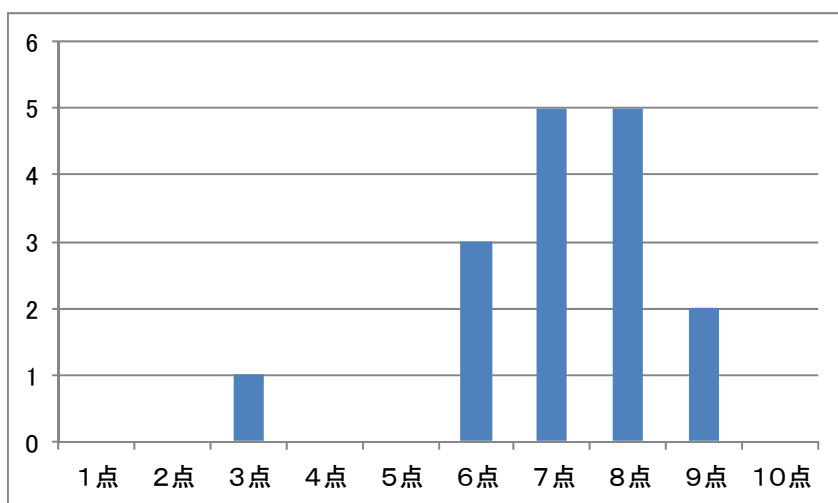
人、場所、もの

こうのとりに見たかったけど、あんまり一目にさらすとストレスで死んでしまいそう。

Q11. 今回のような体験ツアーに、参加費の上限はいくらなら適当だと思いますか？



Q12. 期待と比べて、本日のツアーを10点満点で採点すると、何点つけられますか？
(ルート設定、時間配分、スタッフの対応、交通などツアー全体評価)



減点した理由はなんですか？どのようなことでも結構です。お書きください。

雨で1点減点

イベント数が多い

天気がいいと違ったかも

駐車場が少し足りない

トイレの数が足りない

雨が降っていた。

予想していた計画と違った

もっと山を歩くのかと思っていた。

申し込み後の対応

雨。時間にいいかげん。企画がよくわからない。食べ物がいまひとつ。

時間の配分

集合時間の徹底。服装のお知らせがない（ズックやパーカー軍手など）。参加者がわかるようにワッペンがあると探す時便利

雨が降ったため足元が悪かった。自然には勝てないですね。

トイレ×。

晴れたらいいと思いました。

事前の連絡、説明不足。雨天に対する対策不足。

天候の関係と時間配分および車での参加でもよいと思う。

ちょっとバタバタした感じ

Q13. 今後、白山地区でツアーが開催されるなら、どんなツアーに参加してみたいですか？

宿泊（農家民宿）ツアー

通常生活では体験できないこと

いろりを囲んでなんでも。

林道ウォークなど

スイカ収穫祭

スイカ食べ放題

カニ祭り、スイカ祭り

スイカの収穫

スイカ食べれるツアー

きのこ狩り

地元の食材をつかったものが食べれるツアー

里山の散策（もっと時間をつかって）

山歩き

やはり自然を活かした、今回のような野性的なもの

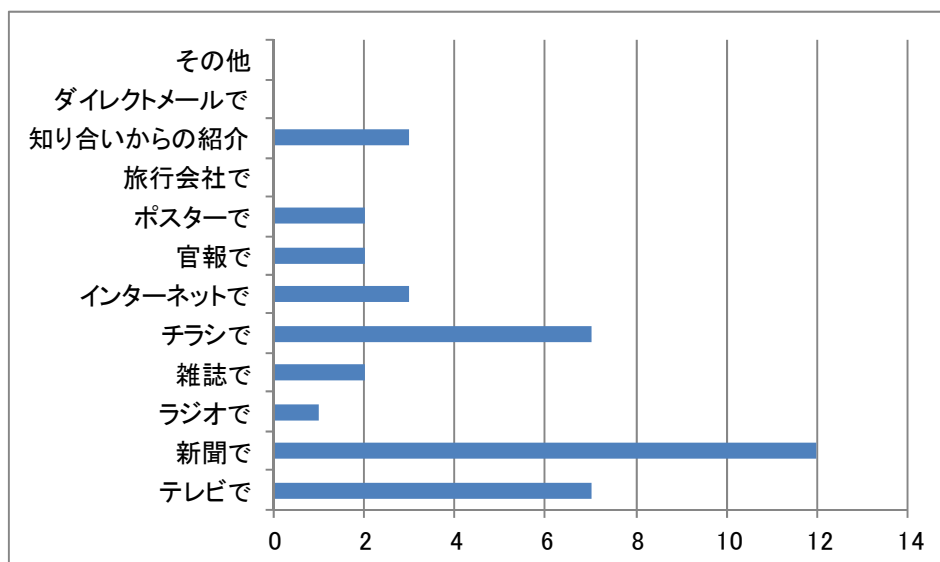
■旅行全般についてお聞かせください。

Q14. あなたが行く旅行は、どのようなところへ行き、どんな体験をしていますか？

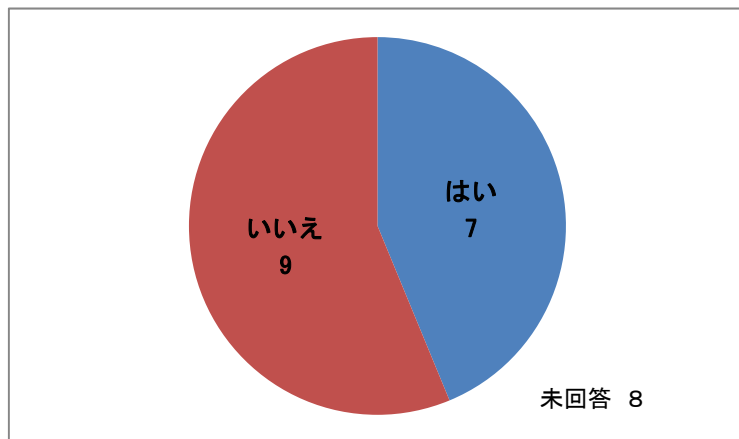
遊園地に行きたいがお金がない／日本、海外、いろいろ。／寺社と庭園めぐり
日帰りバスツアー／温泉、海、山／個人でいろんなところを歩き見る／南国リゾート、ニュージーランドトレッキング／山を中心とした旅行／海外／買い物 or 温泉
温泉につかれるようなもの。テーマパーク／ひなびた山の中の温泉／自然が美しいところ

Q15. あなたが参加してみたいイベント情報は、どこで知りますか？

(該当するものに○複数回答可)



Q16. あなたは農家民宿を体験してみたいですか？（どちらかに○）



Q17. どんな宿泊イベントなら参加してみたいと思いますか？

体験したことのない事をしてみるとか、歩いていってみる、または食べてみる。
いろいろ囲んでの料理体験。／温泉に入って一泊ツアーなら。／ログハウス
アウトドアな宿泊イベント。BBQなどしてテントで泊まるとか。
自分達で作ったものを食べて、大人のツアーをしてほしい。
いろんなことが体験できる。

■今回のモニターツアーを終えて

Q18. ツアーを終えての気持ち、伝えたいこと、ご要望など自由にお書きください。

山の道のない所を歩くのは楽しかった。もっと歩きたかったが、登るのが大変な人もい
とおもう。また、軍手などもってくればよかったと思った。

山でのたべもののうまかった事。

スタッフの人たちにありがとうを言いたい。白山の人は山を大切に思っていて未来につな
げようとしている。がんばってほしい。

全体的にはよかったと思いますが、テーブルがなくて困りました。

限界集落にならないように頑張っている地区へ積極的に行かなければ。

白山頑張って。新しいものを作り出すより今ある価値に気づいて発信してください。

あまりない。今回の趣旨がよくわからない。なんのために山の上にいったの？

はじめてのことばかりで楽しかった。

いつも親子ツアーが多くて参加できなかった。大人もキャンプやいろんな体験をしてみ
たい。大人のイベントをしてください。

しし肉、地産のウィンナー等白山でしか味わえないものが味わえてよかったです。

事前に詳しい内容が知りたかったです。森の音楽会と地元食材を使った料理を食べること
しか情報誌に書いてなかったので、当日バスの中で予定を聞いてとまどいました。

集合場所にはスタッフがいないと不安。収穫祭の配る時間配慮していかないと、そばとか
食べれなかった。食事大満足。

【基礎データ】

年代	20代 1人	30代 2人	40代 5人	50代 7人			
	60代 3人	未回答 6人					
性別	男 7人	女 9人	未回答 6人				
職業	会社員 13人	その他 3人	未回答 8人				
イベントに参加しやすい曜日	月 1	火 1	水 2	木 1	金 1	土 10	日 12
集合場所までの主な交通手段	自動車 16	鉄道 2					
今回何人でどなたと参加	一人 3	二人 9	四人 3	未回答 9			
	家族と 2	夫婦で 7	友達と 3	未回答 12			

2) 第二回しらやまなう 知って得するコウノトリ&里山教室

【趣旨・狙い】

廃校になった小学校を利用し、生物多様性のシンボルであるコウノトリや、里山の幸&海の幸も堪能できるこの地区のよさを知ってもらう。参加者の意見を反映させ、今後のツアー商品化を目指す。

【日時】2012年1月29日(日) 9:30~15:00

【参加費】ひとり1,000円

【参加者】しらやまファンクラブ・しらやま大使 20名

【スタッフ】しらやま振興会メンバー10名

【持ち物】温度調整できる衣料

【プログラム】

- ・日本海まで車で10分たらず、里山の幸&海の幸も堪能できるこの地区のよさを満喫してもらう。
- ・コウノトリのつがいを受入れたしらやま地区の環境への取組みを理解してもらう。
- ・冬のしらやま地区ならではの自然体験をする。

【スケジュール】

時 間	内 容	場 所
9:30	集合・受付	J R 武生駅
	会長挨拶	越前市体育館
	ツアーの趣旨説明	バスの中
10:00	1 校時：コウノトリ講座	安養寺分校
10:30	2 校時：コウノトリ見学	中野町・都辺町周辺
	冬の白山 いいところ撮り(デジカメでチャレンジ)	
11:30	3 校時：発見！しらやまいいところ紹介	
12:00	給 食：食べよう里山の幸&海の幸	
	もちつき・シシ汁・カニ・など	
13:00	4 校時：雪であそぼっ！	
	里山ウォーク・雪合戦・かまくら	
14:00	5 校時：アンケート記入・意見交換会	安養寺分校

15:00	終了・送迎	J R 武生駅
		越前市体育館

【告知】

しらやまファンクラブへの告知

【準備】

現在使われていない安養寺分校の整備、清掃。かまくらづくり。



整備前



整備後



かまくらづくり

【所感】

- ・アンケートは、全体的に満足度が高い結果となった。スタッフも対応に慣れ、運営もスムーズに進めることができ、第一回目の反省、改善が活かされていると感じた。
- ・コウノトリ見学を期待してツアーに参加した人が多かった。コウノトリ講座・見学を通じてしらやま地区の取り組みや、美しい里地里山を知ってもらい、体験してもらうことができた。
- ・今回のツアーのために廃校となった小学校をしらやま振興会で整備した。今後のハード面の選択肢を広げることができたことは大きな成果であった。
- ・大人だけの「雪であそぼ！」（雪だるま、雪合戦、そりすべり）は、新しい取り組みであった。最初参加者に戸惑いが見られたが、体験して「久しぶりに遊ぶことができた」「子供の頃を思い出すことができた」という肯定的意見をいただくことができた。

【反省点・改善点】

- ・「スケジュールを詰め込みすぎ」という意見があった。よりたくさん楽しんでもらいたいという思いが裏目に出ており、時間配分に課題が残る。また、メニューについても受け入れ側の自己満足に終わっているところもあり見直しが必要である。
- ・おもち、シシ汁、水カニと「里山の幸、海の幸」を堪能してもらった。内容・コンセプトには称賛の声をいただいたが、「今回のようなツアーの上限はいくらくらいなら適当だと思いますか」というアンケートに、「3000円まで」と回答が多く、旅行商品化に向けてはさらなる改善、検討が必要である。
- ・「トイレが狭くて使用しにくい」「手洗い場にお湯が出ない」等の不満の声があり、パックツアーに慣れた都市住民を迎え入れているという意識を常に持たなくてはならないと感じた。

【ツアー風景】



駅・体育館で集合



バスの中で白山についての解説



1校時 コウノトリ講座（コウノトリの生態）



コウノトリ講座（白山のコウノトリについて）



2校時：コウノトリ見学



冬の白山 いいところ撮り（デジカメでチャレンジ）



3校時：発見！白山いいところ紹介



白山の農作物の紹介・販売



給食：食べよう里山の幸&海の幸（もちつき）



もちつき・シシ汁・カニ・など



4校時：雪であそぼっ！（そりすべり）



雪だるま・かまくらづくり



みんなで雪合戦



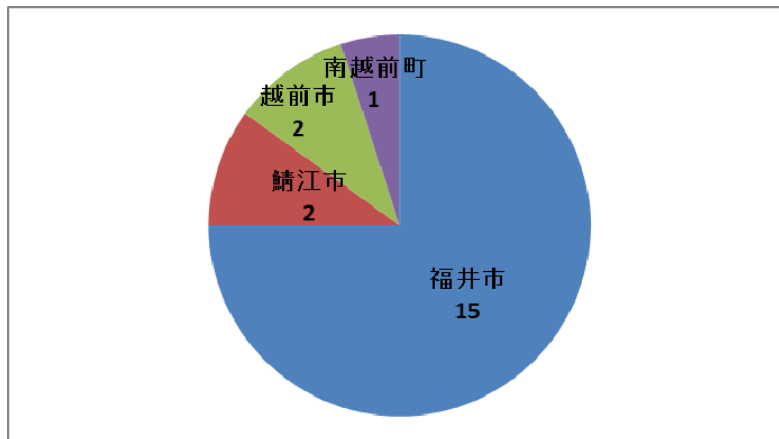
修了証書授与

【アンケート結果】

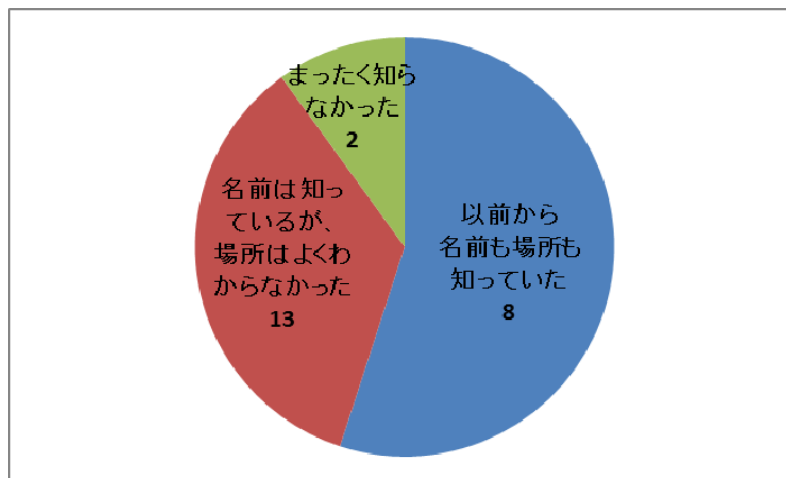
第二回しらやまモニターツアー参加者アンケート

平成24年1月29日

Q1. 本日はどちらからお越しになりましたか？（該当するものに○）



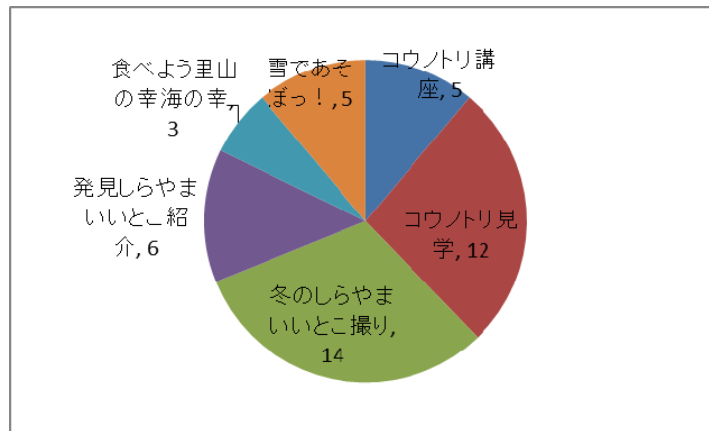
Q2. あなたは越前市白山（しらやま）地区をご存じでしたか？（該当するものに○）



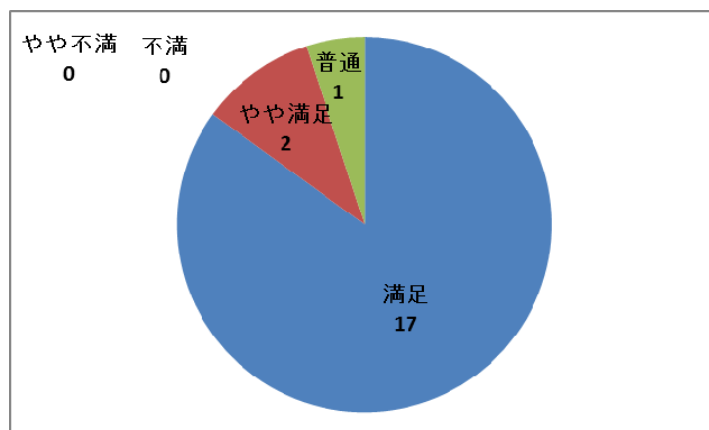
Q3. 今回のモニターツアーに参加されたきっかけはなんですか？

- ・福井新聞で知った。 12
- ・しらやま地区振興会のハガキ 3
- ・友人の紹介で(友人は第1回目より参加していて、とてもよかったと言っていたので) 2
- ・第1回モニターツアーに参加してコウノトリのケージを見たこともあって、今回はコウノトリがどうしているのか気になったため。
- ・主人に連れられて来ました。さぎ草は有名で一度来てみたいと以前から思っていました。
- ・コウノトリを見てみたかったから。
- ・野鳥の会に入っていて、自然が大好きです。里山を身を持って良い事を感じました。

Q4. 今回のモニターツアーのどの部分に期待をお持ちでしたか？（該当するものに○）



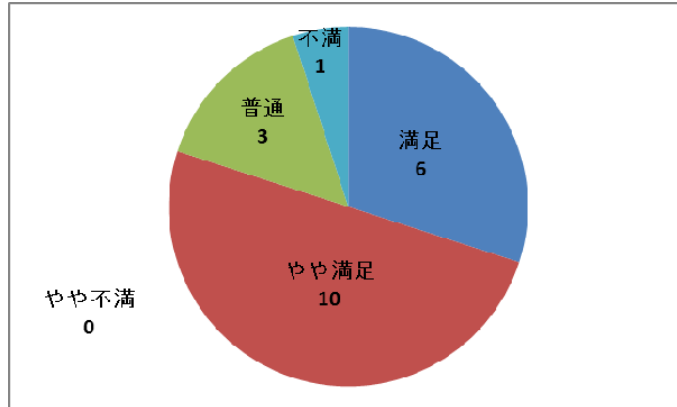
Q5. コウノトリ講座に参加されていかがでしたか？（該当するものに○）



ご意見・ご感想をお聞かせください

- ・コウノトリについて知らなかったのでわかりやすく説明をうけ良かった。2
- ・スタッフの方の熱心なお話や指導に感動しました。地区あげてとりくんでいる姿がとてもすばらしかったです。
- ・コウノトリ、何年も前から準備をされていてすごいと思った。
- ・今までどうしてコウノトリなの？という疑問をもっていたのがやっとわかって良かったです。
- ・コウノトリの生態を知らなかったのですが、特にツルとも違い(花札などの絵)興味深かったです。
- ・これからも、時折見守っていきたいと思います。
- ・コウノトリの今までの内容が理解できて良かった。また、スタッフの方々の努力も旧から続いていることもわかり、一日も早く飛んで着て欲しい思いはまたいっそう強くなった。
- ・コウノトリについての説明をうけ、みなさんの取りくみ方が今回のコウノトリが白山へ来たのだと思いました。

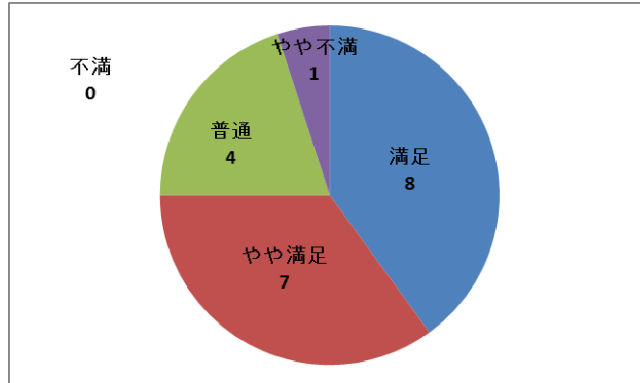
Q6. コウノトリ見学に参加されていかがでしたか？（該当するものに○）



ご意見・ご感想をお聞かせください

- もう少し近くで見たかった。
- 近くまでと思っていたが、内容を聞いて今一番大切な時なので、しかたないと納得した。
- 近くで見る事ができてよかったです。
- 2羽を一度に見れたこと。2羽の近さが良かった！
- 2羽の寄りそう姿に2世を期待します。
- 身近にコウノトリを見学でき満足でした。（一般見学者も多数と思っていました）
- せめてフェンスが無いが、透明のものだと良かったのですが。
- ケージのフェンス等をもう少し目の荒いものにしてほしい。
- ケージ近くで説明してほしい。ポールみのがしました。
- 思っていたのと違って。でも自然に囲まれて(動物園なんかとちがって)コウノトリに対しては思いやりのある良いことでないでしょうか。
- コウノトリが元気である姿を見れてよかった。
- ハウスの外に出ていたので良かったのですが、コウノトリの大きさがいまいち確認できず、残念でした。
- 写真を撮ることが楽しみな者にとっては不満です。でも動物園ではないのだから仕方ないですね。
- 時間が短い
- 小さく見えたが、ビデオで見たい。
- とても良かったです。
- せまいケージで、ストレスはないのかな。

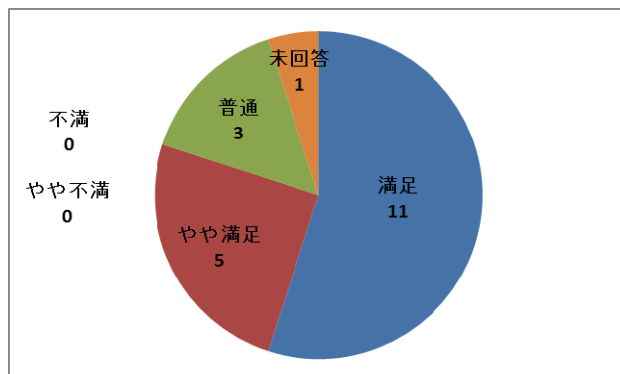
Q7. 冬のしらやまいいところ撮りに参加されていかがでしたか？（該当するものに○）



ご意見・ご感想をお聞かせください

- ・白山の地区を、足で歩いて撮ってみたい3。
- ・もう少し時間がほしかった。2
- ・撮影地がせまかったので、もう少し歩けたらと思う。
- ・自分の知らない景色、思いがあった。
- ・冬はまっ白。
- ・柿がまだいっぱい。
- ・おいしい空気、自然、ロケーションが良かったです。
- ・あそこだけでは「いいところ」とは思えない。
- ・いい企画だったと思います。時間が短く思うように撮れませんでした。天気も良く「冬のしらやま」よい風景でした。
- ・天気も良くとても気持ちよかった。水がすんで、みなさんが取り組んでいる自然が広がっていると思いました。
- ・バスでの移動でしたので、スピードが早く思う様に写真にできなかったです。
- ・車中からの撮影はできない。何ヶ所かバスで回って見学するともっと多様な写真がとれたと思う。
- ・とても楽しかったです。
- ・もう少し近くで見れると思ったのに、意外に遠くて残念だった。（自分のカメラでは充分とれなかった。豆粒くらいの大きさ）
- ・写真を撮るタイミングが短く、みなさんと被写体がかぶった。
- ・名所、古民家等もう少し知りたかった。
- ・歩きましょう!!分校→コウノトリなんて短距離。

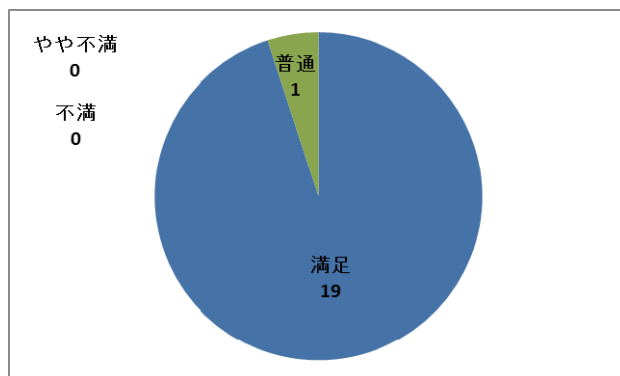
Q8. 発見！しらやまいいところ紹介の参加はいかがでしたか？（該当するものに○）



ご意見・ご感想をお聞かせください

- ・みなさんそれぞれの視点でとらえた写真、勉強になりました。
- ・同じ風景でも、参加される方の見方によって気づかされることもあった。
- ・それぞれの参加者の目線がわかって、おもしろかった。
- ・他の方の意見を聞くことの大切さを、知りました。
- ・みなさんの写真が、とてもきれいに撮れていて感動しました。自分だけでなく、他の方の写真も見れるとは思わなかったなので、撮り方など勉強になりました。
- ・撮ったアングルが、同じものが多かった。

Q9. 食べよう里山の幸&山の幸の参加はいかがでしたか？（該当するものに○）

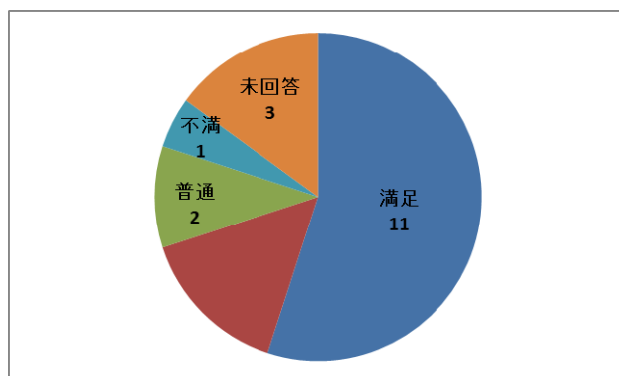


ご意見・ご感想をお聞かせください

- ・もち、しし汁、カニまで旬のおいしい食べ物に感激でした。2
- ・質、量ともに大満足です。
- ・何かが物足りないです。
- ・これで参加費が足りるのか、気がかりです。
- ・たくさんのごちそうおいしくいただきました。お世話いただいた方々本当にありがとうございました。
- ・スタッフの皆様ありがとうございました。
- ・おもちゃシシ汁がとてもおいしかった。

- つきたてのおもち、しし汁など、普段食べることのできないものをいただくことができ、感謝感激です。
- もちやしし汁が特においしく、参加者への心遣いがこもっていてうれしかった。
- たいへん結構でした。
- おもちができたてで、とってもおいしかった。また、腹がいっぱいになり、楽しかった。
- おもちは本当にやわらかくて粘り気があり、どれだけ食べてもあきることのない味でした。
- しし汁もおいしかったです。2杯食べました。
- しし汁おいしかった!!!白いごはんで食べたい。
- おもち、しし汁おいしかった~!!おもちが非常においしく、水もち米もよかった。
- しし汁は初めてでしたが、味も満足でした。
- 水カニは、家でゆっくり味わいます。
- カニまで頂けるとは驚きました。(今度は居酒屋開いてください)
- 水カニも今年初めてでよかった。ごちそうさまでした
- カニまでは手がいかず、持ち帰りになりましたが、見た目に新鮮そうでした。家で食べるのが楽しみです。
- カニはお家にもって帰ります。

Q10. 雪であそぼっ!の参加はいかがでしたか?(該当するものに○)



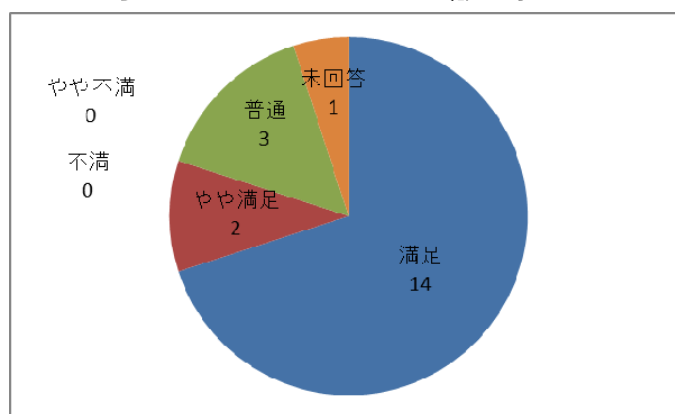
ご意見・ご感想をお聞かせください

- スミマセン。今回コレ参加できず。2
- そりが楽しかった。
- 久しぶりに雪だるま・雪合戦・そりすべりまで、大人げなく大いに楽しませていただきました。
- 雪だるま、雪合戦は楽しかったです。
- 雪だるまをつくりたい!と思っていたところだったんです。
- 皆さん、雪だるまや雪合戦まじめにやられてよかったようです。
- 雪は雪かきぐらいしか知りませんでしたが、雪だるま作りやそり等とても興味深かったです。
- 久しぶりの雪だるま作り(小学校以来?)とても楽しかったです。長靴が破れてしまって途

中で足がべたべたになったのが残念でした。

- 50 数年ぶりの竹スキーやソリ遊びなど、子供に振り返り楽しかった。
- 子どもに戻り、ありがとうございました。
- そりスキーは、子どもの頃を思い出しました。
- 寒かった。(年なので仕方がないが) それでも童心に戻れて、雪と遊べた。
- 体が満足に動けたらもっと良かったと思っています。
- 大阪から仕事で来たのですが、雪で遊んでくれる人がいなく、ちょうど良かったです。
- 都会から来たわけでもないのにと感じていましたが、よい遊びでした。
- 雪は冷たいので！
- 私はこういう事は、にがてです。
- チラシにあった「里山ウォーク」がなかった。

Q11. バスでの参加はいかがでしたか？（該当するものに○）



ご意見・ご感想をお聞かせください

- バスは便利で、廃校で行ったことは良いことだと思います。
- 道に迷う心配がなく快適でした。
- ゆったりした広い車内でよかった。
- 冬道で運転がこわいので、バスはよかった。
- ゆったりとしたバスで満足です。
- バスが小さいためか、座席が小さく窮屈だった。
- 車がないので、助かります。
- 場所がちゃんとわからず、よく白山は迷子になることが多かったので、助かりました。
- 安全運転とガイダンスに感謝
- 武生駅集合でしたが、駅でブラカードもっていただくと助かります。

Q12. 今回のモニターツアーに参加する前に持っていた白山地区のイメージと、参加後のイメージではどう変わりましたか？

参加前のイメージ

- スイカしか知らなかった。2
- スイカの夏のイメージでした。

- ・コウノトリ、スイカは知っていましたが、自分の目で見ようとは思いませんでした。
- ・白山スイカとさぎ草
- ・茅葺き屋根の、古民家がある所を思っていました。
- ・自然たっぷりで、ちょっと閉鎖的？かなーと思っていました。
- ・もっと山奥の地区、かと思っていました。
- ・山の中雪の山中で、暗いさみしいところと思っていた。
- ・良いところとは思っていた。
- ・何回か来ましたが、冬山も良いものでした。
- ・全く知らなかったなので、イメージしようがない。（田の広がっているイメージ）
- ・あたたかさは同じです。
- ・里地里山で有名だったので、来る前からいいイメージでした。
- ・冬は、どこに見どころがあるか迷ってました。
- ・里山作りを見聞きしていてがんばっておられる所。

参加後のイメージ

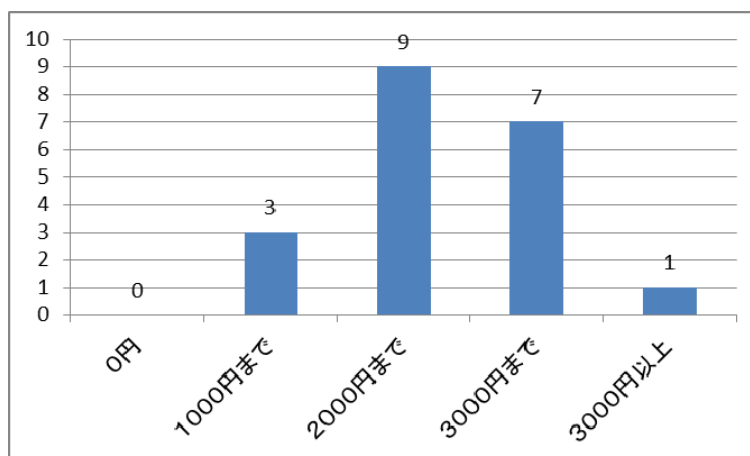
- ・自然が多い
- ・素朴
- ・里山のイメージが出来ました。
- ・自然豊かな地区だと思います。
- ・近くて町にはない自然がいっぱい。里山は、ずーっと残してほしい所
- ・いろんなイベントを企画されている方がいて、楽しい所だなと思いました。
- ・鳥や人にやさしい、環境作りに取り組んで町づくりをしているようでうれしい。
- ・やっぱり、思っていたより良いところだと思った。
- ・村の人たちや、コウノトリに対する一生懸命さ、人を受け入れて村をPRしたいという強い心が感じられました。
- ・改めて白山のスタッフの方の、コウノトリ等を通して環境作りの熱意を感じました。
- ・スタッフの気持ちのよさ！
- ・みなさんおだやかで、暖かい。
- ・おだやかな里山というイメージ（厳しさは感じられない）海が近いというのも意外だった。
- ・白山地区の人も自然も、大変身近なものとなりました。
- ・地区外の方にも、開けた場所だと感じました。
- ・村おこしにがんばっていることが、体感できました。事業の継続性を、期待します。
- ・冬は、ゆっくり歩いて見て回りたいです。白山は、夏も冬も春も秋もいろいろ楽しみいっぱいです。
- ・古民家を、もっとアピールしたらいいかがですか。煙の吹き出し部がきれいでした。

Q13. 印象に残った風景・場所・もの・人・話・たべものなど3つ程度教えてください。

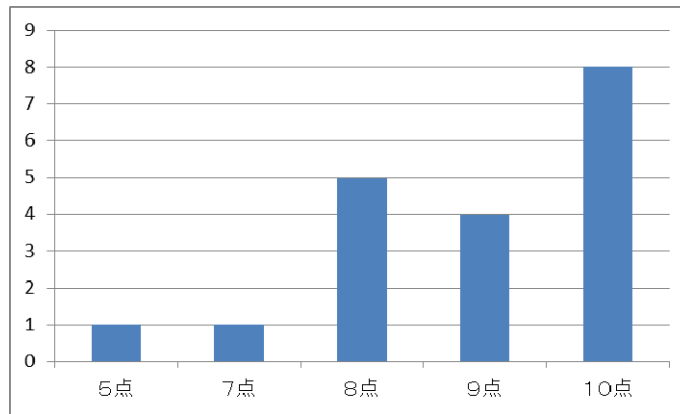
- ・つきたての、おいしいおもち 3
- ・冬水田んぼ、私の近くではめずらしい風景でした。2

- ①冬水田んぼ ②コウノトリの近くの民家の駐車場(協力している) ③おもち
- 冬水田んぼ、コウノトリのケージ、シシ汁
- 川の風景、ケージ、水はり田んぼの良さ
- 冬水田んぼ(薄曇りの陽に照らされて)
- 冬水田んぼ、しし汁、安養寺分校(木造校舎)
- 広い田んぼと山
- スタッフの人達の、笑顔
- もちつき(ざわめき、食べる音など含めて)
- もち、しし汁、カニ
- コウノトリの姿、雪の田んぼ、一生懸命して下さるスタッフ
- コウノトリ、お米、自然、家屋のたたずまい
- コウノトリのための、巣のポール。できれば自然の木の上に、巣を作ってほしい。
- コウノトリが2羽たわむれている姿
- 里山、きれいな水、体に良い食べ物が多くあり、人情味がありうれしかった。
- 低い山すその雑木林。これからは、このあたりの散歩にきつとくると思う。
- あの柿、もっと利用しましょう。
- しし汁、雪だるま、冬景色
- ここの分校、スタッフの笑顔、コウノトリのお話。
- 安養寺の「シラサギ」展示会に、一年おきに出席させていただいています。
- 安養寺分校、率直な意見交換する人、しし汁
- 物…風景(山と田んぼ、家)
- 人…地区のみなさんのおもてなし心
- 食べ物…サトイモ食べてみたい
- 話し方も方言ありの話し方、良いです。
- 第1回と同じように、良いと思いました。みなさんの取組は、素晴らしいと思います。

Q14. 今回のような体験ツアーに、参加費の上限はいくらなら適当だと思いますか？
(該当するものに○)



Q15. 期待と比べて、本日のツアーを10点満点で採点すると、何点つけられますか？
 （ルート設定、時間配分、スタッフの対応、交通などツアー全体評価）



減点した理由はなんですか？どのようなことでも結構です。お書きください。

- ・食事時間が短かった。（前の授業が遅れていたため）
- ・コウノトリへの期待が、大きすぎた。
- ・メーンを一つにしぼって行った方が、いいと思います。
- ・冬でも、やはり歩いてみたい。
- ・トイレが狭くて使用しにくい。
- ・手洗い場にお湯が出ない。
- ・里山の幸、もっと食べたい。
- ・白山らしいもの、食べ物が少なかったようです。
- ・コウノトリ見学が、どうしても前面に出る印象ですが、里千里山体験にして、コウノトリ見学をあまり前面に出さない方が良い。
- ・コウノトリの距離を、説明してあるといいのでは？
- ・応援者が、親切すぎる？こと。
- ・直接来るには、少し分かりづらいところ（駅・・・等でバス利用が良い）

Q16. 今後、白山地区でツアーが開催されるなら、どんなツアーに参加してみたいですか？

- ・里山トレッキング 2
- ・森の中を歩く。
- ・ウォーキング
- ・里地里山見学
- ・原木を造る。
- ・冬のクロスカントリー
- ・冬のカンジキ、ウォーキング
- ・夏にスイカを食べる。
- ・自然の体験ができる。

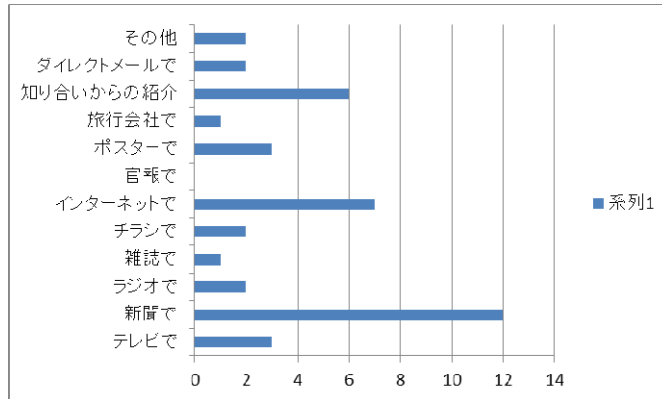
- 体力作り、ハーフマラソン
- やっぱりコウノトリ
- すいか収穫体験
- すいか収穫祭（野菜等）
- ピザ作り
- 物作り（リース、しめ縄）
- 白山地区の民芸品作りツアー（昔の体験教室みたいな）
- 昔遊び体験
- 収穫祭
- 夏の子ども体験（遠方なので、日程的に無理かも）
- 白山地区のうまいもんツアー（お年寄りの味など・・・）
- 春夏秋冬、それぞれの白山地区を知りたいと思いました。
- 20名くらいの少人数のもの
- 安養寺のシラサギ展とのタイアップ
- 白山の施設見学ツアー（農場、牧場、工場）
- 若かったら全部に参加したいです。

■旅行全般についてお聞かせください。

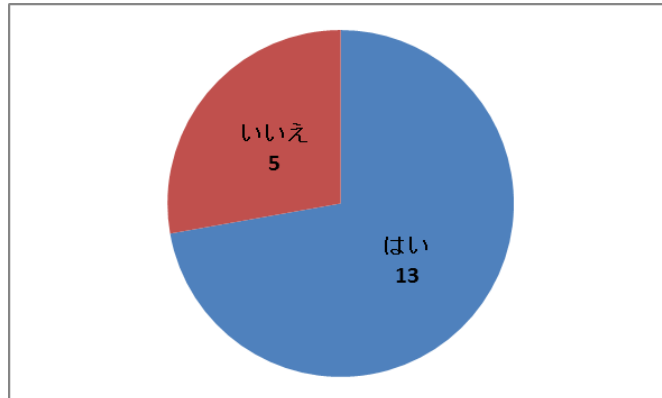
Q17. あなたが行く旅行は、どのようなところへ行き、どんな体験をしていますか？

- 自然体験、2
- 神社仏閣
- 屋久島、北海道
- 国内全域、ヨーロッパ（一部）
- 温泉地で名所めぐり、お寺の庭園見学
- 山、海、田んぼで散歩
- 温泉めぐり
- 国内の文化遺産
- 私は国内から、いろいろ野鳥の会に参加しています。
- 自然豊かな所（心をなぐさめてくれる）
- 植物のたくさんあるところ。
- 田舎で体験物、都会で美術館など
- 自然が中心、山、川、滝、湖を感じるもの
- 趣味が写真なので、今は信州に行っています。
- 人情豊かな所（民宿さど）
- 日本も海外も行きますが、ツアーでは行きません。
- 行った所の人達と、話しをする。

Q18. あなたが参加してみたいイベント情報は、どこで知りますか？
（該当するものに○複数回答可）



Q19. あなたは農家民宿を体験してみたいですか？（どちらかに○）



Q20. どんな宿泊イベントなら参加してみたいと思いますか？

- ・農業体験 6
- ・炭焼き 2
- ・しいたけづくり
- ・流星ツアー
- ・おばあちゃん（昔語り、体験等）
- ・田舎料理の伝承等
- ・昔ながらの生活体験(まきでご飯をたく・いろり体験 など) 5
- ・温泉の入浴を入れながら、スケジュールをくんでほしい。

■今回のモニターツアーを終えて

Q21. ツアーを終えての気持ち、伝えたいこと、ご要望など自由にお書きください。

- ・どうも楽しい一日ありがとうございました。 5
- ・おいしい、楽しい、童心に帰る一日でした。
- ・福井から電車での参加で楽しかったです。
- ・白山地区のすばらしい自然を存分に体感でき感動させていただいた一日でした。できれ

ば自分も白山地区のよさは、他の人に伝えていきたいと思いました。

- ・森さんの明るい笑顔に、とても癒されました。また、機会があれば参加したいと思います。

- ・スタッフの方が、朝早くから準備されて大変だったと思います。

- ・参加者へのもてなしの心が、行き届いていてうれしかったです。

- ・皆さんの親切で、何か申し訳ありませんでした。ありがとうございました。

- ・スタッフの皆さん大変御苦労様でした。今後よろしくお願いします。

- ・大勢のスタッフにもてなしをうけ、楽しく過ごせました。ありがとうございました。

- ・行事を企画、実行、支援された方々のご苦労に感謝します。

- ・白山の「人の温かさ」が伝わってきてよかった。また、おもちつきも最近では味わえない、体験できないので良かったです。

- ・今日の体験を、ぜひ知人友人に伝えたいと思います。

- ・コウノトリ米のことを伝えたいと思います

- ・体験することで友人にもススメやすい！

- ・白山の自然の事がわかり、よかった。

- ・大変ご苦労様でした。いろいろ見ることでできてよかったです。また、参加します。春夏秋冬すべて。

- ・四季いろいろな時に、一度来て見たい。

- ・今日が私と私の母(一緒に参加した一人)の誕生日だったので、とてもいい記念日となり、“コウノトリ記念日”にしたいと思います。

- ・白山に知り合いがいるのですが、なかなか機会がなく来られないので教えてもらったことを話しの種にして、ちょこちょこ来たいと思います。

- ・もち、カニ、しし汁、腹いっぱいになり 1,000 円で満足です。

- ・海が近くてカニもおいしいですが、里山の幸をもっと！

- ・おいしいものを食べさせてもらったことは満足なのですが、何か物足りない気がしました。それは何でしょうか？

- ・コウノトリの美しい姿。

- ・冬の白山、自然がいっぱい。

- ・遊歩道が、たくさんほしい。

- ・野菜の販売など、もっとあるとよい。

- ・かんじきをはいて、少し山を歩いてみたかった。

- ・里山でヨガ♪予約します。

- ・広く広報しようとしたら、やはり子連れの世代をターゲットにするとよい。福井市方面にも広げて欲しい。母親のネットワークは、すごいので、携帯などのメールで、あっという間に広がる。

- ・「子どもと一緒に体験できる」をうたい文句にするとよい。子ども世代にも自然のよさ、人の温かさを伝えてほしい。

- ・旅行の商品になるには・・・

- ①女性の場合、温泉巡りを一つでも入れると良いのではないのでしょうか。

- ②野菜や農産物の販売を(たくさん)

③この地区独自のお惣菜など食べれるとよい。

- いろんな所へ行かないと、むずかしいと思う。
- 柿しぶは、簡単にできるんですね？柿しぶで、分校の板ぬりませんか。
- 参加費等で、地元の出費が大変と思います。次回から少し参加費のアップもやむをえないかと思います。
- 自分が参加できて、良かったです。
- 娘がいたので、安心して参加しました。

年代 10代 0 20代 0 30代 4 40代 1 50代 8 60代 6 70代 0
80代以上 0 未回答 1

性別 男7 女11 未回答

職業 学生0 主婦5 会社員6 アルバイト1 フリーター0
その他6（自営・ファイナンシャルプランナーほか）

イベントに参加しやすい曜日 月3 火2 水1 木2 金1 土9 日12
土日どちらでも1 不明1

集合場所までの主な交通手段 自動車9 鉄道6 バス1 自転車0 未回答1
その他[徒歩1]

今回何人でどなたと参加 [人 と]

1人で、7

2人で、家族と、5 ・ 友人と5

3人で、友人と 1

未回答 2

（４）評価・検証

モニターツアーの内容について参加者の評価から、商品化に向けての改善ポイントは以下の通りである。

①今回のモニターツアーを通じて、ツアー全般のアンケート１０段階評価は、平均７点から８点を獲得していることから、この方向での需要はあることが見込まれる。

②ツアー価格については、助成金がなくなれば６０００円～８０００円／人となり、実際の参加率は低くなることが予想される。アンケートからは、３０００円までが妥当とする声が多数を占め、今後採算ベースに乗せるための検討が必要である。

今回、試行として「金華山収穫祭」参加してもらうプログラムを作った。地元農産物を大量に購入するツアー客も見られ、地元でお金を使ってもらうことができている。このような視点をもっと取り入れることが、解決の一つの糸口になるものと考ええる。

③スタッフについては、今回しらやま振興会のメンバーが中心となって行われた。各自本業がある中であり、準備等も含めて負担が大きい。今後商品化に向けては、プログラムのブラッシュアップ、地域内外での体制づくりや、コーディネーター、ガイド、ボランティア等人員の確保・育成が必要である。

④ツアーに参加して「しらやまのイメージがアップした」と答える人が多く、また、ツアー後には参加者のほぼ全員が「しらやまファンクラブ」に加入していることを評価したい。

⑤しらやまのコウノトリは今、県内外で注目されており、コウノトリの見学を目的とした参加者も多かった。しかし、コウノトリは「美しい里地里山のシンボル」としての位置づけ・取り組みであり、今後ツアーのメインとなり続けるものではない。

アンケートでは、しらやまの特産である「しらやますいか」に関するツアーに参加したいとの要望が多数あった。また、現地視察を終えたアドバイザーからもこの地域のツアーの核となりうるという助言を得ており、ヒントになるものと考ええる。

（５）成果と今後の課題

１）成果

豊かな自然環境を活用した体験型ツアーが実施出来た。会場整備により、今後の利活用の方向性が確認出来た。また、アンケートによる意見の集約と検討の結果、本事業の需要は十分にあり、今後の発展次第で、新たな地域活性化の柱となる見込みが出来た。

２）課題

今回はモニターツアーということもあり、様々な項目を試そうと過密的なスケジュールになってしまった。今後ツアー開催の時にはもっと時間に余裕を持たせた内容にする必要がある。また、準備に多くの人手を割くことになったため、無理が生じることもあった。収益の問題が最も大きく、同規模のツアーを同じ参加費で行うことは不可能のため、予算が少なくとも、同程度或いはそれ以上の満足に参加者に感じてもらうために何が必要かを検討、実施していかなければならない。

３）今後の展開

無理の生じることの無い体制、ツアー計画を確立していくべきであり、何よりも収益が出なければ、継続は困難である。今後も、ツアーの商品化を主眼としたモニターツアーを開催していきたい。具体的に、来年度は水と里山のツアー、ホテル観察ツアー等、様々な形のツアーを実施していく。

3. インターネット・ソーシャルメディアを活用した情報発信

しらやま振興会は以前から公式ホームページを開設しており、振興会の広報部がその更新を担当している。内容はしらやま振興会や水辺の会における「活動報告」の場として、主としてブログを活用したものであった。

しかし、ブログ以外の内容は長年更新がなされておらず、時代のニーズに合っていなかった。また、活動報告等の紹介はあるが、農林産物や商品、観光など、しらやまの魅力を伝える情報ページがなかった。



しらやま振興会公式ホームページ

今後、地域外の人との交流と協働による地域活性化を進めるにあたって、インターネットでの情報発信は有効かつ不可欠である。

よって、本事業において以下の取り組みを実施した。

取り組み内容

- 地域ポータルサイトを開設し、農林産物・観光商品の情報発信を行う。
- ソーシャルメディアを活用し、消費者と地域の定期的なコミュニケーションや、口コミによる情報の広がりをおこなう。

(1)「越前しらやまのおもてなし」ホームページ制作の検討、実施

開設にあたり、方向性、全体レイアウト、写真の素材はどうするかなどが検討された。その中で、活動報告については現在使い慣れているブログを使用し、他の部分に関しては、段階的に新しいホームページへ移行していくことが決定した。

タイトルは「越前しらやまのおもてなし」とし、農産物、観光商品、観光情報を発信するために「しらやまの紹介」「しらやまの魅力」「特産品」「年間行事」情報を掲載することにした。

また、しらやまの魅力をより伝えるために、PRビデオを掲載した。（「しらやまのご紹介」「しらやまの応援歌」「こうのとりの様子」）

【越前しらやまのおもてなしHP】

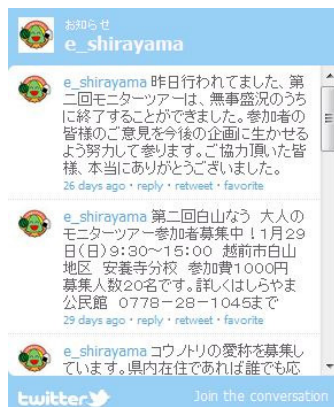


（２）ソーシャルメディア（Twitter）の活用

消費者と地域の定期的なコミュニケーションや、口コミによる情報の広がりを狙い、しらやま振興会ツイッターを開設した。（アカウント名 e_shirayama）

ツイッターは、「越前しらやまのおもてなし」HPトップページに掲載し、ホームページ上からも閲覧を可能にした。

また、地区内で実施のイベント告知や、イベント終了後の参加者の様子などの報告等に活用した。



（３）成果と今後の課題

１）成果

ホームページの整備により、本地区の魅力をより全国に向けて発信することができるようになった。また、インターネットを通じたつながりができることも期待される。

ツイッターをHPの「お知らせ」にすることで、携帯で簡単に情報を発信することができるようになった。

２）課題

今回ホームページに掲載した情報以上に、まだまだ魅力的な商品や観光地、イベントが本地区には存在する。今後いかにしてそれを整理し、発信していくかが課題となる。

ツイッターにおいては、本年度は立ち上げ、試行実施までの取り組みであり、効果的な活用までには至っていない。企業や観光地の中には、ソーシャルメディアを使ってお客様の意見やニーズを収集し、サービスの向上等に成功しているケースがある。今後、相互コミュニケーションとしての活用や、口コミの広がりを狙った情報発信に役立てていきたい。

３）課題解決のためには

ホームページについては、チームによる順次情報の入れ替え・更新を実施する。

ツイッターについては、振興会の広報部での試行継続、人材の育成、勉強会等を通じて効果的利用につなげていく。

4. 壱の市の出展拡充

4.1 壱の市の現状把握調査の実施

しらやま振興会（水辺の会）において試験的に直売所を出店し、課題の把握・解決策の検討、新たな商品開発へつなげる。

（1）アンケート調査の内容と調査結果

しらやま直売所（コウノトリゆめの里）に関するアンケート調査

対 象 者 ： 直売所を訪れたお客様

調査期間 ： ①たけふ菊人形会場（平成23年10月1日） 10:00～16:00

②たけふ菊人形会場（平成23年11月3日） 10:00～16:00

調査内容 ： 同一設問でアンケート調査

調査人数 ： ①10月1日 40名（男6名・女34名）

②11月3日 47名（男12名・女35名）

年 代 ： 10代 2 20代 3 30代 6 40代 5

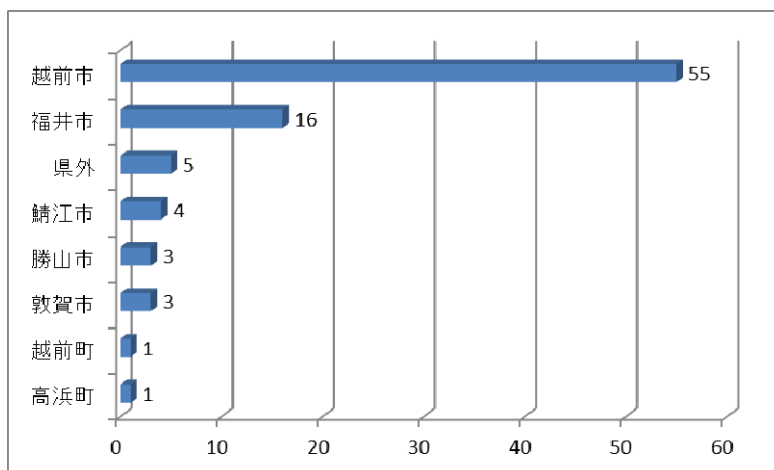
50代 16 60代 39 70代 15 80代以上 1



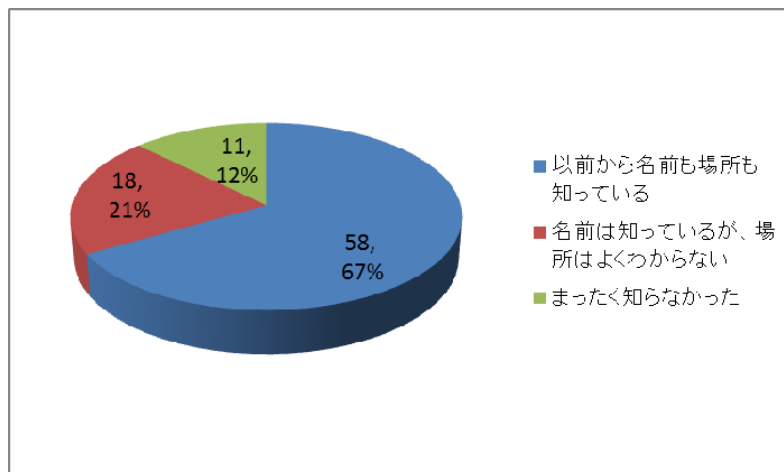
しらやま直売所

【アンケート】

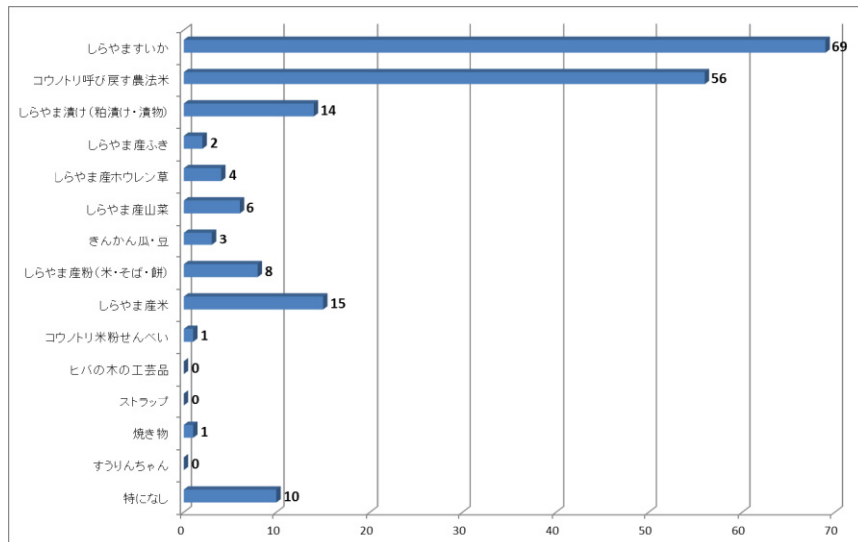
Q1. 本日はどちらからお越しになりましたか？



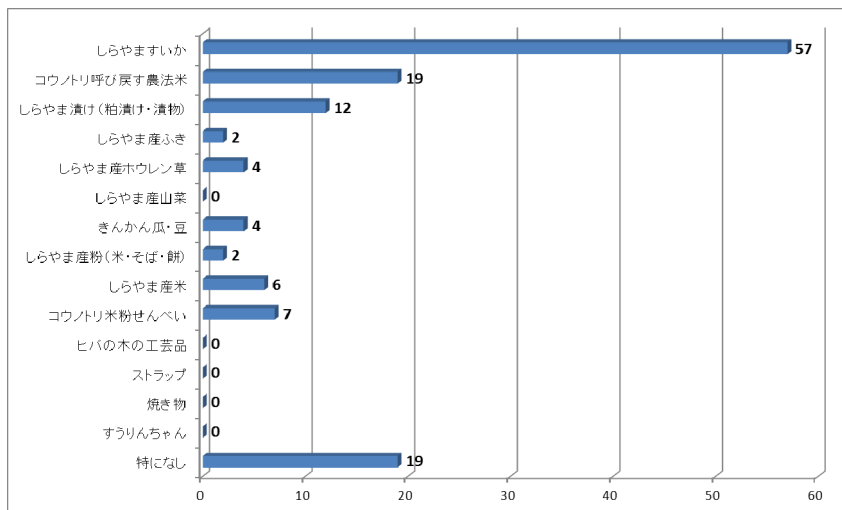
Q2. あなたは越前市白山（しらやま）地区をご存じでしたか？（該当するものに○）



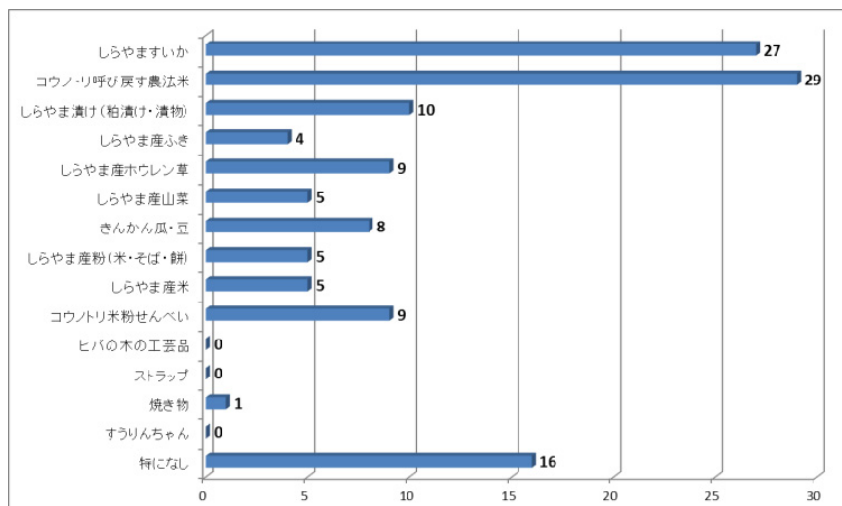
Q 3. しらやまにはさまざまな農産物・加工品・工芸品があります。
 あなたがご存知のものを選んでください。(いくつでも) (該当するものに○)



Q 4. しらやまの農産物・加工品・工芸品のうち、あなたがこれまでに買った、
 食べたりしたことがあるものを選んでください。(いくつでも) (該当するものに○)

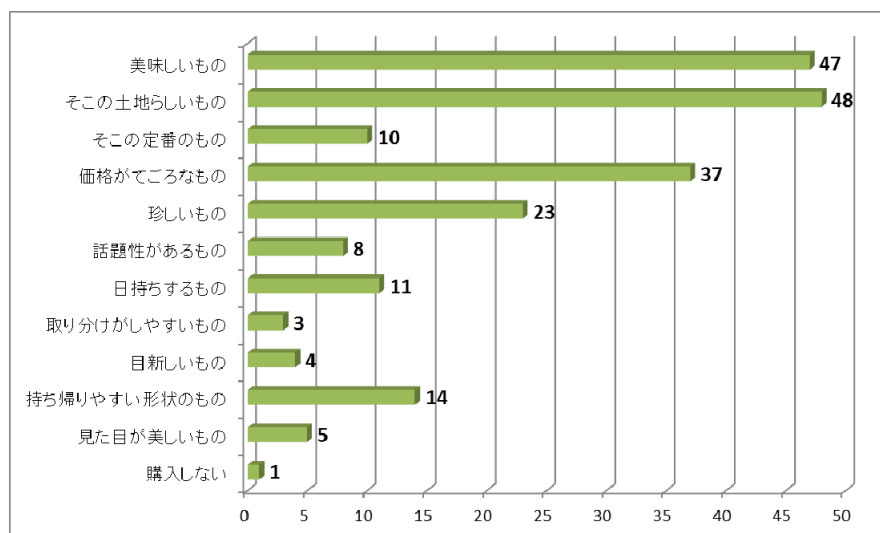


Q 5. 今後買ったり、食べたりしてみたいしらやまの農産物・加工品・工芸品は何ですか？
 (初めて、あるいは2回目以上でも結構です) (該当するものに○)

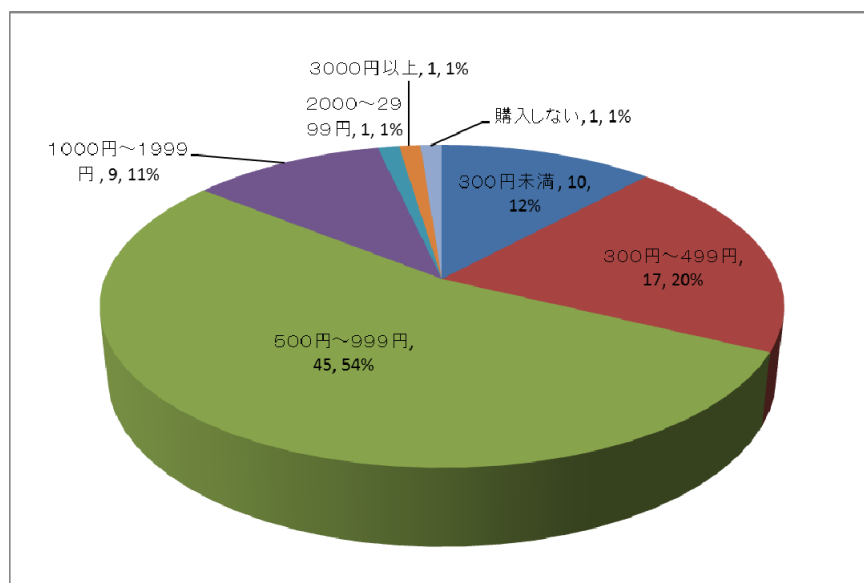


【青空市（フリーマーケットやテント市など）での商品購入について】

Q 6．商品を購入する際のポイントを教えてください（3つ 該当するものに○）



Q 7．商品を購入する際の平均単価はいくらですか？（該当するものに○）



Q 8．今回、しらやまブースで商品を購入しましたか？（該当するものに○）

購入した 4 1 購入しなかった 4 3

Q 9．Q 8で購入したと答えた方にお聞きします。今回、何を購入しましたか。また、商品を購入した理由を教えてください。

マカロン 5、コウノトリ米 4、みそ 5、大豆 4、はんかち 2、茶 1、おから 1、せんべい 3 だいこん 3 てぬぐい 3 柿 2 さつまいも 1 ホウレンソウ 3
にんにく 1 白菜 2 シール 1 タオル 1

購入した理由（自由記入）

美味しそうだったから 1 2 価格がてごろだったから 8 見た目がよかったから 6
珍しかったから 4 無添加・無農薬のものだから 4 知り合いが対応してくれたから 3
家でつくれないものだから 3 一度食べてみたかったから 2
試食しておいしかったから 2 前回食べておいしかったから 2
地みその食べ比べをしているから 1 白山でつくられたものだから 1
白山にしかないものだったから 1

Q10. Q8で購入しなかったと答えた方にお聞きします

今回、しらやまブースの商品を購入しなかった理由を教えてください。

購入しなかった理由（自由記入）

欲しいもの・必要なものがなかったから 1 3 家にあるものが多いから 8
そこでしか買えないものがもっと欲しい 5 少し高かったから 5
荷物になるから 5 自分でつくれるものが多いから 4 品数が少ないから 3
地元なので 2 おなかがいっぱいだったから 1 試食があるとよい 1
コウノトリ米の袋がお米に見えなかったから 1 豆のつぶが小さい 1

【来客数調査結果】

①たけふ菊人形会場（平成23年10月1日）10：00～16：00

時 間	来客数
10:00～11:00	27人
11:00～12:00	56人
12:00～13:00	37人
13:00～14:00	46人
14:00～15:00	55人
15:00～16:00	31人
計	252人

②たけふ菊人形会場（平成23年11月3日）10：00～16：00

時 間	来客数
10:00～11:00	32人
11:00～12:00	45人
12:00～13:00	29人
13:00～14:00	41人
14:00～15:00	59人
15:00～16:00	35人
計	241人

コウノトリゆめの里

たけふ菊人形会場（平成23年10月1日）販売数量および金額

品名	単価	販売数量	販売金額
米糠石鹼	400		0
ポットマム（鉢菊）	600	6	3,600
キーホルダー	700		0
玄米茶	600	4	2,400
ハンカチ	500	7	3,500
タオルハンカチ	450	2	900
ストラップ	700	1	700
大豆	300	10	3,000
みそ	650	10	6,500
缶バッジ	200		0
コウノトリお米	850	12	10,200
サツマイモ	150		0
柿	100		0
ナンキン	200		0
ピーマン	100		0
せんべい	200	7	1,400
マカロン	150	72	10,800
メモスタンド	200	1	200
紙芝居	2415	1	2,415
合 計		133	43,200

コウノトリゆめの里

たけふ菊人形会場（平成23年11月3日）販売数量および金額

品名	単価	販売数量	販売金額
ほうれん草	100	48	4,800
ハクサイ	300	8	2,400
大根	100	19	1,900
さつまいも	150	7	1,050
ムカゴ	200	2	400
里いも	200	1	200
あずき	350	1	350
赤とうがらし	200	3	600
赤とうがらし	100	2	200
トマト	150	1	150
キウイ	200	2	400
キウイ	100		0
くるみ	350	2	700
くるみ	100	1	100
にんにく	200	2	400
渋柿	100	20	2,000
甘柿	100	40	4,000
コウノトリ米	850	1	850
もち米	600	4	2,400
コシヒカリ	600	1	600
米粉	300		0
米糠	200	1	200
クンタン	100		0
コウノトリ羹	500		0
ハンカチ	450	1	450
ハンカチ	550	3	1,650
キーホルダー	350		0
ふっくりシール	250	1	250
缶バッジ	200		0
メモスタンド	200		0
しおり			0
マカロン	250	6	1,500
せんべい	200	14	2,800
せんべいセット5	1,000		0
紙芝居	2,415	1	2,415
合計		67	32,765

【分析】

- ・会場には幅広い年齢層が来場していたが、直売所に訪れる方の8割は女性、また、60代、越前市に住む人が多かった。この層が主たるお客様となっていることがわかる。
- ・「しらやますいか」や「コウノトリを呼び戻す農法米」は高い知名度があり、購入してみたい、食べてみたいと回答する人が多かった。
- ・商品を購入する際のポイントとして、「その土地らしいもの」や「珍しいもの」を求める傾向が強かった。次に、「美味しいもの」「価格が手ごろなもの」という結果であった。
- ・商品を購入する際の平均単価は1000円未満に抑えることが買いやすいポイントであることがわかる。「市場と比べて安ければ買う」という人や、「その土地らしいもので、気に入ったものであれば高くても買う」という声もあった。
- ・実際に購入した理由としては「美味しそうだったから」「価格がてごろだったから」「見た目がよかったから」が多く、この3つがクリアできている商品が販売につながりやすいことがわかる。
- ・購入しなかった理由としては「欲しいものがないから」「家にあるものが多いから」が多く、「そこでしか買えないもの」「その土地らしいもの」を求めて直売所に来るお客様が多い傾向にあった。

（２）成果と今後の課題

1) 成果

消費者である都市住民のニーズをデータとして具体的に見ることができた。分析結果を生産側にフィードバックすることで、生産と販売をセットにした戦略的な商品開発の取り組みが可能になった。

2) 課題

アンケートの分析から消費者は「そこでしか買えないもの」「その土地らしいもの」を求めており、しらやまならではの商品づくり（独自性の追求）が課題となる。また、店頭においてしらやまの商品の良さを消費者にわかりやすく伝える工夫が必要である。

3) 課題解決のためには

しらやまブランドの開発等、希少野生生物の保全を付加価値とした商品づくりや、6次化産業への展開に今後積極的に取り組んでいく。店頭においては、ブランド認証シールを活用し、他との差別化を図り安全・安心を伝えることや、ポップなどを制作し商品の良さを伝える工夫を行う。

5. 広葉樹林を整備し、暮らしと健康への利活用

5.1 水源地域としての里山保全活動の考え方

本地区の自然環境の特徴は、山際のいたるところで湧水が流れ出し、それによって潤う湿地が点在するといった自然特性と、先人たちが水田を維持する水源を確保するために、ため池を造成し維持管理してきた営みに集約される。これらの営みによって維持されてきた自然環境は希少な野生生物の生息基盤であり、これからも守り続けていくことが必要である。また、こうして保全された里地里山は、災害にも強く、安全な自然環境を提供してくれている。

5.2 広葉樹林の整備、利活用

広葉樹林に涵養された湧水は谷に開かれた水田を潤し、さらに低地の水田を潤して川へと注ぎ、地域一体が水源地域となっている。

一方、管理コストがかさむことや高齢化等による担い手不足のため、放置される広葉樹林が増加するなど、水源林の機能低下が進んでおり、生物多様性を保全する上で様々な問題が懸念されている。

荒廃した里山水源林の保全・機能回復を図り、人の交流と協働により保全活用し、人も生き物も元気の出る里地里山を目指す。

取り組み内容

- 荒れた広葉樹林を整備し、丘陵の水源涵養機能を保全するとともに、下草を刈って見通しをよくする。
- 整備後の広葉樹林をグリーンツーリズム等の交流事業に活用し、新たな地域活性化につなげる。
- 陰切を行うことにより、獣害の軽減を図り、多様な生物との共存を図る。

(1) 整備内容

水源地域活性化調査事業 広葉樹林整備

場所：牧町

月 日	内 容
7 月 24 日	雑木・下草伐採
7 月 31 日	雑木・下草伐採
8 月 7 日	雑木・下草伐採
8 月 14 日	雑木・下草伐採
8 月 16 日	雑木・下草伐採
8 月 28 日	雑木・下草伐採
9 月 4 日	雑木・下草伐採
9 月 10 日	木道作成 重機使用 雑木片付け
9 月 11 日	木道作成 重機使用 雑木片付け
9 月 23 日	雑木伐採、片付け作業
11 月 6 日	会場設営作業 雑木片付け
11 月 12 日	会場設営作業 雑木片付け

【整備状況】

整備前は長らく人の手が入っておらず、道も歩きにくい状態となっていたが、まず枝打ちを行い、同時に雑草を刈り取って通りやすい道にした。また、多くの木が茂っているために、ほとんど陽が当たらなかったことから、間引きを行った。結果、通りやすく、陽の当たる道や広場が形成され、枝や草の影響で流れの悪かった湧き水も勢い良く流れるようになった。間引きの際に出た丸太等は薪や木道、ベンチを作成するのに使用した。



整備前



整備前



現地視察



整備後（ベンチ）



整備後（ベンチ）



整備後（木道）



整備後（モニターツアー活用）



整備後（モニターツアー活用）

（２）成果と今後の課題

１）成果

広葉樹林を単に整備しても、このまま人が入ることがなければ結局また元に戻ってしまうという課題がこれまであった。この課題を解決する一つの方法として今回、森林そのものに付加価値、利用価値を付随させることで定期的に人が入るようにする取り組みを行った。整備後に実施された森林を利用したモニターツアーは、参加者の反応もよく、一定の成果を上げることができた。

２）課題

今回行われた整備は、地区内の放棄された広葉樹林のわずか一部である。これ以上の大規模な整備を行うことは、現スタッフ数では現実的ではなく、資金的にも難しい。

また、山は個人の所有であるため、整備したりツアーを実施したりするためには許可を得る必要があり、許可されなければ何も出来なくなってしまうという問題がある。

グリーンツーリズムの成立については、定期的な開催が可能な経済的裏づけが必要であり、今後どのような形で行っていくか検討が必要である。

３）課題解決のためには

森林は地域資源であり、この利活用を行うことが、水源地域を守り、地域産業を再生させる方法であることを、地域住民、都市住民に広く知ってもらう必要がある。

グリーンツーリズムの定期開催については、外部組織との共催も視野に入れ、計画していく。

6. まとめ（水源活動の実施と今後の課題整理の分析）

今回、主に5つの事業を中心として活動を行った。これら全てに共通することは、豊かな自然環境と共に営み続けてきたことに価値を持たせ、地区内外の人々との交流により、里地里山を保全再生するということであった。価値の低いものは価値を高め、或いは価値を失ったものはその価値を復活させるというように、里地里山に存在する資源を余すことなく活用することこそ、本調査の主題であり、また今後の課題である。

「ブランド化事業」は、これまで生産されており今後も生産され続ける産品に「しらやまブランド」という価値を付加することで、その価値が向上されることを目的として取り組んだ。また一方で新たな商品開発を行うことで、価値の創造にも努めた。今後はブランド化した産品をいかに活用するかが課題である。

「体験農林業等のメニューの拡充」は、これまで耕作放棄地と同様に放置されていた広葉樹林を整備することにより、その価値を復活させ、また木材の販売のみならず、別の方向に利活用するという、価値の復活と価値の付加という2つのことを同時に兼ねた事業であり、この取り組みは一定の成功を収めることが出来た。また、森の活用方法は一つではなく、様々な方法があることから、今後もまた別の価値が付加されることで大きく利活用されることが期待される。

「インターネット・ソーシャルメディアを活用した情報発信」は、インターネットを活用することで、しらやま全体の価値を広く宣伝しようとする試みである。今後、ホームページを充実させることで、地域外の人との交流と協働による地域活性化が期待される。

「老の市の出展拡充」は、しらやまの産品やしらやまという地域について、その価値を再確認し、その上でどうするべきかを模索する試みであった。今後はアンケート結果を踏まえた上で、しらやまブランド商品開発等の新たな展開を図っていきたい。

「広葉樹林を整備し、暮らしと健康への利活用」については、今回はモニターツアーでの利用が主題であった。今後は身近な生活における活用方法等も検討することで、荒廃した里山水源林の保全・機能回復を図る。